

平成 2 9 年度

事業報告（案）

社会福祉法人相楽福社会

目次

平成29年度 事業報告（案）

相楽福祉会全体	1
総務部	6
健康管理部	10
相楽地域障害者生活支援センター	17
相楽作業所	23
相楽デイセンター	31
精華地域活動センター「心」	42
（クリエイティブスペース）ていすと	48
エコ・クリーン相楽	53
サービスセンター相楽	60
グループホーム サポートセンター「樹葉」	64

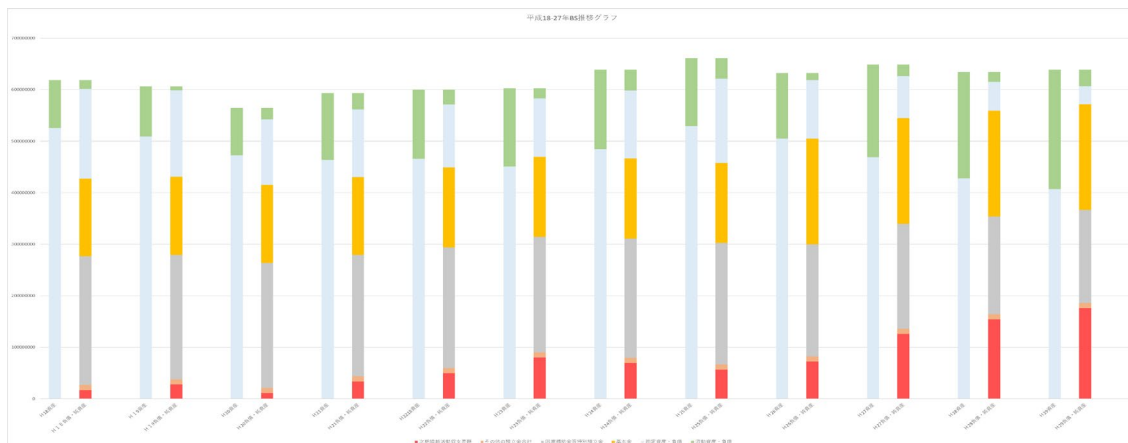
社会福祉法人相楽福祉会
平成29年度事業報告（案）

はじめに

平成25年1月に始まった新体制執行部の事業是正と再生努力が徐々に成果を生み始め、この4年半に最悪状況を脱し①事業合理化で財務体質のプラス改善（＝財政再建・事業継続性担保）と ②職務待遇（給与含）改善や人権・支援技術研修等による提供サービスの質&量的維持という成果を見る事によって、即ち平成30年度事業計画に示された「新生相楽」への道筋が軌道に乗ったと評価できる。

※ 参考；図Ⅰ グラフ資料 平成18年～平成29年決算報告資料から貸借対照表推移グラフ作成・・・赤色棒で示されている次期繰越活動収支差額の推移を見ていただければ財政的には改善傾向が見て取れる。

図Ⅰ 貸借対照表推移グラフ



支援費（契約）制度導入以後15年余、福祉制度構造はサービス利用者側から不断に改善されて来ており喜ぶべきことではあるが、他方、サービス提供事業体にとっては厳しい時代となりつつある。担い手絶対不足の限界現況を背景として、サービス需給ギャップや受給単価と提供コストの乖離実態等が十分手当されない儘、暮らしに必須な隙間の無い「我がごと・まるごと」サービス提供体制の構築推奨は、弱小事業体に加増負担を強い体力疲弊を招き結局は提供サービスの質・量の悪化に陥ってしまう、との指摘こそ当法人の現況であり今後も楽観は赦されないとの見通し持ち「使命感と緊張感ある覚悟」が必要である。

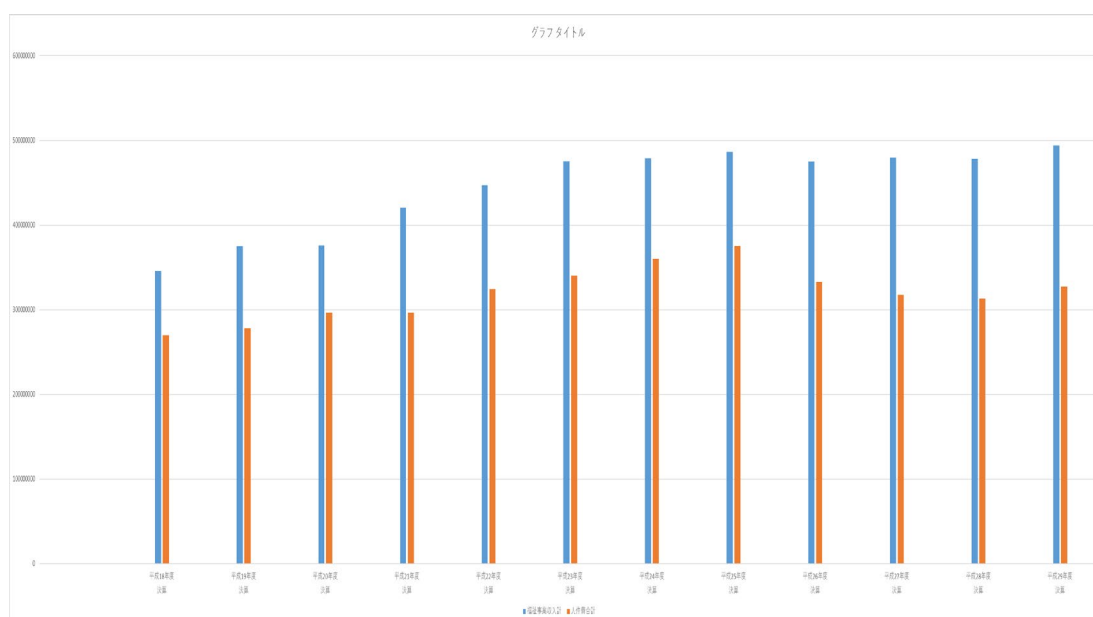
※ 参考；グラフ資料 平成18年～平成29年決算報告から事業総収入と人件費の推移及び人件費率推移グラフ作成・・・

図Ⅱ 青色棒は事業総収入、赤色棒は人件費の推移

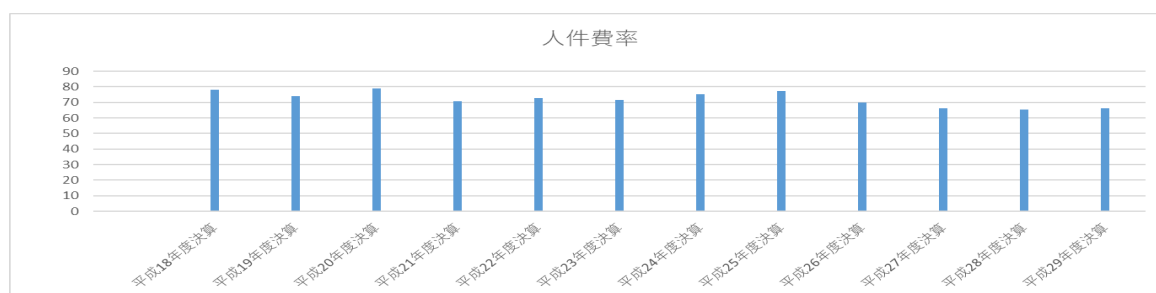
図Ⅲ 人件費率推移

平成18年：78%、平成25年：77%、平成29年：66%、等から職員配置水準＝支援質水準と人件費率の引き上げは喜ばしい事であるが、高いサービス水準＝質を維持しつつ事業継続性をも担保する事は収支バランスから見て経営にとって本当に厳しい事になる。

図Ⅱ 事業収入（青棒）と人件費（赤棒）



図Ⅲ 人権費率の推移



福祉制度が設計上は生活領域をほぼ全域カバーする「わ・ま」な時代にあって、今後はその「質」が問われ、（現状は玉石混淆であるところの）サービス競争時代に突入するだろうし、そんな状況にあっても事業継続性を担保して行くには、適正な総合収支バランスを保ちながら（希望的には）5%程度を引当金に残せるよう各事業を一層精査し、高品質サービスを低コストで提供できるよう厳しい経営努力をして行かねばならない。困難な時代、全て秀逸人材の獲得が鍵であるが、本年度人材獲得予算を引き上げて務めたが十分な成果にはつながらず来年度も一層努力が必要である。

福祉サービスの需給ギャップを埋めることは福祉法人として「使命・ミッション」であると自覚しているが、グループホーム事業が象徴するように、事業単体では極端に収支バランスを欠く部門もあり、本体（生活介護）事業総動員支援体制（=職員過重労働体制）の上で辛うじて維持継続が成立しているという実態からは殆ど脱出できないでいる本年度の現況結果を猛省し、他方厳しい業務にあっても支援の質向上に懸命である職員の皆様にお詫びし、その努力に心から感謝申し上げねばならない。

I 運営指針に基づき評価

- 1 各職員の事務分掌を明確にするとともに、計画及び報告を確実にを行い、評価を加えることで、組織的運営を図っていく。
 - ・社会福祉法改正に伴い、理事会及び評議委員会の再編を行った。
 - ・日常的に運営会議・管理職会議・職員会議で議論し意思決定を行った。
- 2 職員の給与等の処遇改善を行い、計画的なマンパワーの確保を行っていく。
また、人権に配慮した適切な支援を行うために、人権研修と共に障害の理解をさらに深める研修を行う。
 - ・処遇改善費を支給し給与面での改善を行うことで、年度途中での採用に一部つながったと思われる。新卒者の人材の確保のための見学会を年度当初より試みたが、2名の見学にとどまり採用には至らなかった。
 - ・次年度に向けて3回生を対象にインターンシップ（施設見学・体験）を実施し、5名の受け入れをした。今後の採用につなげていきたい。
 - ・研修に関しては障害者の理解のための、身体・知的・精神の理解を深める研修により、職員の支援の在り方を見つめなおす機会となった。
- 3 利用者の高齢化に則して、設備面の改善及び介護保険事業の利用を継続的に
行う。また、家族の高齢化に伴う暮らしの変化に応じて、他事業所の資源も
積極的に活用し、本人に合った暮らしの充実を図る。
 - ・法人内においては80歳を超える利用者もおられ、動きの大きな人たちと交錯しないように活動場所を分ける等の工夫をした。また、介護保険事業所との並行利用も積極的に進め、本人に合った活動場所の調整を行った。
- 4 新規利用者の受け入れをすすめ、支援学校卒業後の通う場所の提供と財政の
安定化を図っていく。
 - ・次年度に向けて小規模に分散していた事業所を合併させ、新築の建物での事業を進められるように整備をおこなった。そのことを受けて、支援学校の卒業生の実習を積極的に受け入れ次年度4名の新規利用者を迎える予定である。

II 事業計画に基づく評価

- 1 組織的運営で事業を進めていく
 - ・制度改革に伴い、評議委員会・理事会の再編を行い、運営会議・管理職会議・職員会議を定期的に行い、福祉会の意思決定や合意形成を図った。
 - ・安心安全や人権に配慮した支援が行われているか、各会議の重点議題として意識的に論議していく。
 - ・各事業所内で各職員の年間の役割を明確にし、職員会議等で確認を行った。
 - ・メール等の活用報告により、タイムリーな連絡と相談を徹底し、利用者の状況や事業運営の状況を事業所間で共有していった。

2 通所事業での活動内容の見直し

- ・相楽作業所において比較的高齢の方を中心とした班の質を高めるため、介護事業所や医療機関、グループホームとの連携をすすめた。一方、介護保険等の見学及び研修は実施に至らなかった。
- ・これまで小規模で事業を行っていた「エコ・クリーン相楽」と「(クリエイティブスペース) ていすと」を同じ場所で運営できるように、新築の賃貸物件の整備を行った。そのことにより次年度より設備の充実した活動場所の提供と支援学校卒業生の受け入れを進めることができた。
- ・相楽デイセンターの空調設備設置等計画的な設備改善をした。
- ・日々の利用者の状況変化に対しては事業所内でとどめることなく、タイムリーに情報を共有し、可能な部分での協力体制をとった。

3 暮らしの場の充実

- ・グループホームでの夜間支援のスタッフの充実を図り、宿直から夜勤化を一定推進したが依然として職員負担は残り、今後の継続的な課題である。
- ・他事業所のガイドヘルプの利用をすすめ、休日の外出を充実させることができた。介護事業所やホームヘルパー等の活用も継続させ、個々に合わせた暮らしを安全で豊かなものとした。
- ・安心安全のために2か所のグループホームにスプリンクラー設置を行った。

4 相談支援の充実

- ・業務内容の整理がスムーズに行えず、人員補充もできない状況であった。計画的な相談支援員の育成が今後重要になってくる。

5 財政の安定化

- ・「エコ・クリーン相楽」と「(クリエイティブスペース) ていすと」の場所の拡大及び「相楽作業所」と「精華地域活動センター「心」」での、新卒者受け入れをはじめ今後の収入増の可能性を広げた。
- ・グループホームのスプリンクラー設置では補助金の活用を行い、施設ごとに計画的に設備改善を行う。

6 人材確保と職員育成

- ・求人サイト登録により計画的に人材確保を行ったが新卒者の獲得には至らなかった。一方、3回生向けのインターンシップには5名の参加があり、次年度へつながる結果となった。
- ・処遇改善費等を活用し給与改定を行い、職員の処遇改善を行った。そのことで、年度途中での採用がスムーズになったと考えられる。
- ・支援技術の向上、障害の理解及び人権意識を高めるため下記の通り研修を重点的に行なった。

< 新任研修 >

- ・ 法人の歴史、支援の基本、障害者福祉施策 3 日間
(中途採用者のため 3 回実施)

< 法人研修 >

- | | | |
|-----------------|---------------|-------------|
| ・「救急法講習」 | 精華町消防署 | 救急手当指導員 2 名 |
| 6 月 1 0 日 (土) | かしのき苑 | |
| ・「摂食時の注意」 | 山城総合医療センター | 言語聴覚士 草野由紀氏 |
| 6 月 3 0 日 (金) | 相楽デイセンター | |
| ・「精神障害についての理解」 | 龍谷大学 | 准教授 樽井康彦氏 |
| 7 月 2 7 日 (木) | 相楽作業所 | |
| ・「発達障害の理解 (基礎)」 | 小規模作業所七 | 所長 櫻井基生氏 |
| 9 月 2 2 日 (金) | 相楽作業所 | |
| ・「身体障害者の理解」 | 重度障害者通所介護じゅらく | 所長 久門 誠氏 |
| 1 0 月 1 9 日 (木) | 相楽デイセンター | |

2) 外部研修への参加

京都府社会福祉協議会及び自立支援協議会等の研修参加

3) 資格取得に向けて業務上配慮

介護職員初任者研修等については法人で費用負担し、受講を促進させた。

社会福祉法人相楽福祉会
平成29年度 総務部事業報告（案）

継続した運営基盤を構築するための財政安定化を掲げ、以下の事業を実施した。

＜計画に即した評価＞

1 継続的運営のための財政安定化

- ・各施設の運営と財政状況について所属長と連絡を密に取りながら予算執行状況を常にチェックし、事業計画に基づいた財務の運営ができるよう努めていく。
- ・出来る限りの資産留保に努め、修繕や人件費等積立金の積立ができるようより一層努力する。

事業計画に基づく予算の執行を常に意識し、予算外の支出についてはそのほかの予算執行状況や削減に努め、各施設長とともに計画的に進めていくことができた。その結果、当期活動増減差額は21,803千円の黒字計上（昨年度は28,374千円の黒字）となった。

各施設とも設備の老朽化に伴う設備改修を予算通り進めた。しかし修繕や人件費等の資産留保には至らず、今年度の予算執行状況を見ながら今後計画的に積立金の計上を進めていきたい。

2 財政状況の認識強化

- ・四半期ごとに管理職会議において財政状況を報告確認し、財政状況の認識を強化していく。
- ・職員全体にも現状の周知をできるだけわかりやすく行っていくことで、法人全体で財政に対する意識づけを行っていく。

3か月ごとの四半期決算を作成し、運営会議、管理職会議にて報告を行った。しかし、職員全体に周知する点については昨年度に引き続き実施には至らなかった。

過去の財政状況の影響から、職員の節約に対する意識が高いが、逆にそれが積極的な改善を拒んでいるような気風がある。各施設の設備の状況を常に意識し、計画的に改修、改善ができるよう努めていきたい。

3 事務の効率化

- ・各行政への提出書類もインターネットによるオンライン申請が普及し始めており、それらを積極的に導入し、効率的に事務作業を進める。

書類での提出が必須の業務以外については、ほぼインターネットによる手続

きへの移行を進めることができた。今後も業務の効率化のため導入できるところから進めていきたい。

4 理事会・評議員会の開催

平成29年度は、社会福祉法人制度改革による新たな法人運営体制となって初めての開催となった。別添1のとおり理事会5回、評議員会1回を開催。事業報告、決算報告、事業計画、予算等各種審議を実施した。

評議員選任解任委員会による評議員の選任も1回行われた。

5 平成28年度決算書の作成

平成28年度決算書から社会福祉法人会計基準に基づく決算書資料を作成。各種財務諸表、添付資料を作成した。

<別添1>

平成29年度 理事会・評議員会の開催状況

○理事会

	開催日時	場所	議案内容	出席 理事	出席 監事
第 1 回	4月1日	相楽デイセンター	第1号議案 理事長および業務執行理事の選任について	9名	0名
第 2 回	5月15日	相楽デイセンター	第1号議案 平成28年度事業報告(案)について 第2号議案 平成28年度決算(案)について 第3号議案 監事監査報告について 第4号議案 新役員候補者の推薦について 第5号議案 定時評議員会における議案内容について	10名	2名
第 3 回	5月31日	相楽デイセンター	第1号議案 理事長および業務執行理事の選任について	4名	0名
第 4 回	10月11日	精華町地域福祉センターかしのき苑B会議室	第1号議案 評議員候補者の推薦について 第2号議案 就業規則の改正について 第3号議案 事業所合築について 第4号議案 グループホームスプリングラー入札について 第5号議案 相楽デイセンター空調設備入札について 第6号議案 グループホームおよび相楽デイセンター工事に伴う入札業者選定委員会の設置について	6名	1名

○理事会

	開催日時	場所	議案内容	出席 理事	出席 監事
第 5 回	3月19日	相楽作業所	第1号議案 平成29年度補正予算 (案)について 第2号議案 平成30年度事業計画 (案)について 第3号議案 平成30年度予算(案)に ついて 第4号議案 就業規則の改定について 第5号議案 経理規程の改定について	5名	1名

○評議員会

	開催日時	場所	議案内容	出席 評議員
定 時	5月31日	相楽デイセンター	第1号議案 理事・監事の選任同意に ついて 第2号議案 平成28年度事業報告 (案)について 第3号議案 平成28年度決算(案) について 第4号議案 監事監査報告について 第5号議案 理事、監事の報酬につい て	5名

○評議員選任解任委員会

	開催日時	場所	議案内容	出席 委員
第 1 回	2月7日	相楽作業所	第1号議案 評議員の選任について	3名

社会福祉法人相楽福祉会
平成29年度 健康管理部事業報告（案）

平成29年度が開始されて間もなく看護師2名体制となり、利用者健診や事業所支援全般に配慮が行き届いた年度となった。中でもグループホームの利用者支援で早期ガンが健診で見つかり、早期に治療できた事は評価される。今後も可能な限り医療・健康面の支援を継続して行きたい。また、職員に向けての医療研修については、外部講師に依頼して食事介助の実技研修他を実施した。

＜計画に即した評価＞

1 基本方針

（1）通所事業所の給食を円滑に運営して行けるように努める。

給食委託先に食中毒三原則（手洗い・加熱・保冷）を厳守するよう要望した。

また、利用者の嗜好を含めた献立（管理栄養士作成）で安全な食材を使用した給食を提供するように努めた。

【実施内容】

給食提供日数／2箇所…①相楽作業所年間242日 ②相楽デイセンター年間242日

提供食数 ①相楽作業所 15,022食

②相楽デイセンター 11,870食

※相楽デイセンター食数は（クリエイティブスペース）ていすとを除く

給食1食を平成28年9月から570円（職員・一般）で、利用者は食材費340円負担で提供した。

（2）利用者・職員の医療を含む健康全般に配慮し、健康で過ごせるよう支援する。

年度初めに看護師2名体制になり、検診等の利用者支援において看護職を中心に実施する事ができた。また、利用者の日々の体調管理に努め、相談のある時は看護師と連携を取り対応した。

2 事業内容

（1）給食関係

① 利用者・職員の意見を聞きながら栄養バランスのとれた献立になるよう努める。
また、個別対応も含めて適量配膳を目標として、残債の少ない給食にする。

美味しい給食となるよう利用者の直接の意見を聞き、献立作成をした。日々の検食日誌を委託先にも閲覧してもらいながら、給食会議で利用者・職員の意見を検討した。

一人一人の栄養摂取目標量が違うので、健康も考慮した配膳になるように努めた。

② 毎月、納品食材の確認を行ない、国産野菜を使用するよう努める。そのためには、委託会社と連携を取り、安全な食材を使用し、美味しい給食を提供する。

また、地元産の旬の食材(特産品を含む)を一部給食に取り入れて行く。

地元産の食材(特産品を含む)を毎月3～4回(3～4品目位)給食に取り入れた。
価格面で地元産が高すぎる場合のみ、国産の旬の野菜・果物を購入した。

③ 衛生面では、食中毒を起こさないように充分注意する。

衛生面では、食中毒や感染症を拡大させないように次の点に留意した。

○アルコール手指消毒器や薬剤のスプレーによる消毒を実施した。

○調理実習・お菓子作りについて、マニュアルに従って実施し、ノロウイルス胃腸炎
他の食中毒を防止した。

○手洗い場など施設内全般の消毒を実施した。

(2)医療・保健関係

①利用者の健康診断等の実施

- ・利用者健康診断を全員年1回実施する。
- ・歯科健診の実施・歯科衛生指導の実施
(京都府の事業として、決定された場合は実施する。)
- ・血圧・体重測定の実施

○利用者の健康診断は、協力医療機関である精華町国保病院で9月に実施、また、精華町在住で40歳以上利用者21名の方々には、特定健診・がん検診を推奨し受診して頂いた。(木津川市のグループホームの方々には、グループホーム職員中心で対応)

そのため、内容も充実し、費用面でも安く実施できた。【資料：表1】

○歯科健診と歯科指導(フォロー健診)については、平成29年度も京都府の特別の配慮により、実施された。相楽作業所・心の利用者を中心に受診した。【資料：表2】

○利用者の健康管理を目的とした体重(血圧)測定を【資料：表3】の通り実施した。
前年度途中で車椅子用体重計を購入し、車椅子の利用者の方々も、およそ月1回継続して測定できた。

②職員の健康診断の実施

- ・ 職員の年 1 回の健康診断と、深夜勤務従事者は年 2 回の健康診断を実施する。
- ・ 各種ワクチン接種の実施

○職員は年 1 回の健康診断を必須としている。精華町国保病院か協会けんぽの指定病院のどちらかで受診した。なお、女性の乳がん・子宮がん検診を協会けんぽの指定する年度に（2 年に 1 回）実施とした。【資料：表 4】

○職員の深夜勤務従事者健診を実施した。（年 2 回・その内、協会けんぽ健診を受診した人は 1 回に含めている。）【資料：表 4】

○感染症予防対策として B 肝ワクチン接種やインフルエンザワクチン接種を希望する職員に実施した。なお、インフルエンザワクチン接種については、精華町国保病院の医師に来てもらった為、利用者と職員が同時に接種する事ができた。

・・・・・・【資料：表 5】【資料：表 6】

③健康診断の実施後やその他、必要な時に嘱託医への相談等を実施する。

医療に関する質問を嘱託医に連絡して回答をもらった。

④感染症の予防に努め、発生時は早期に対処し、感染拡大を防ぐよう努める。

○年間を通してノロウイルス・インフルエンザ両方の対策として、アルコールと消毒薬を併用した。また、冬期はノロウイルス（感染性胃腸炎）の流行を防止するため、1 2 月から翌 3 月末まで塩素系薬剤を追加使用し、消毒を実施した。

○利用者の日々の体調管理の実施（体調不良時には早めに気づき、支援するようにした。）

⑤その他（今年度追加した事業）

○本部の事業より医療に関する研修の依頼を受け、看護師が講師を行ったり、外部講師を招いての、職員向け医療研修を実施した。【資料：表 7】

<資料>

【表１：利用者健康診断】※ガン検診も含む

実施日	対象者	場所	人数	内容
平成２９年５月 ３０・３１日 ６月１・５・７・ ８・９日 (７日間)	特定健診※①・がん 検診に該当する利 用者(精華町の４０ 歳以上の希望する 利用者)	精華町役場 (精華町)	精華町 ２１人	・特定健診※①(問診・身 体計測・検尿・血圧測定・ 血液検査・心電図・診察) ・がん検診(肺がん・大腸 がん・前立腺がん検診)
平成２９年７月 １１・２５日	精華町の利用者 (４０歳以上の女 性で２年に１回)	学研都市病院	精華町 ４人	乳がん検診(触診・マンモ グラフィー)
平成３０年 １月 ３０日	同上	精華町役場	精華町 ３人	骨密度測定
平成２９年 ９月 ２０日	木津川市の利用者 (４０歳以上の女 性)	えくにクリニ ック	木津川市 ３人	子宮がん検診 (グループホーム支援)
平成２９年 ９月 ５・６・１２・ １３日	上記特定健診※① を受けた人以外の 利用者(がん検診済 みの人は胸部Ｘ線 検査以外を受診)	精華町 国保病院	８１人 (別に欠席 者及び通院 中の利用者 ６名)	血圧測定、身体測定、血液 検査、尿検査、胸部Ｘ線検 査、心電図検査(３５歳以 上)、内科診察
平成２９年 ９月６・１３日	乳がん検診 女性 全員対象で希望者	精華町 国保病院	３０人	内科検診時に外科医師によ る触診を実施
平成２９年１１ 月１４・２１日	木津川市の利用者 (４０歳以上)	田辺中央病院	４人	乳がん検診 (触診・マンモグラフィー) (グループホーム支援)

【表 2：歯科健診と歯科指導の実施】※相楽作業所で実施

日程	内容	実施人数	実施主体
平成 29 年 12 月 12 日	相楽作業所・心・エコ クリーン相楽他の歯 科健診	【作・24 人】【心 8 人】 【エコ・クリーン 8 人】 【ていすと 3 人】	【健診】山城歯科医師会 2 名と京都府歯科医師会 歯科衛生士 2 名
平成 30 年 2 月 13 日	同上の方々の歯磨き 指導（歯科衛生士）	【作・26 人】 【心 8 人】 【エコ・クリーン 8 人】	【歯科指導】京都府歯科 医師会歯科衛生士 2 名

【表 3：体重測定（血圧測定等）の実施状況】

項目	対象者	実施回数	人数
体重測定	全利用者	年間 11 回 作業所・デイセンター	全員 事業所ごとに測定した

【表 4：職員健診実施状況】※週 30 時間以上勤務の職員対象

実施日	対象者	場所	人数	内容
平成 29 年 9 月 5・6・ 12・13 日	協会けんぽに 該当しない職 員	精 華 町 国保病院	20 人 内 1 名 協 会 け ん ぽ 該 当	血圧測定、血液検査、尿検査、胸部 X 線検査、 心電図検査（35 歳以上）、内科診察 ※②
年間を通 して予約	協会けんぽ健 診で該当する 職員	指定病院 から選択	53 人	基本健診（問診・身体計測・検尿・血圧測定・ 血液検査・心電図・レントゲン・便潜血検査、 胃がん健診・診察等） 乳がん検診（触診・マンモグラフィー） 40 歳以上の女性全員（2 年に 1 回） 子宮がん健診…20 歳以上の女性（2 年に 1 回）
9 月・ 翌 3 月	深夜勤務従事 者健診	精 華 町 国保病院	6 人 8 人	前記の※②と同じ（ただし、心電図検査は全 員）で、年 2 回実施（協会けんぽを受診する 人は 1 回に含まれる）
職員採用時	随時	精 華 町 国保病院	6 人	前記※②と同じ内容＋視力・聴力・心電図検 査全員実施

【表 5：B 肝ワクチン接種の実施状況】

実施日	対象者	場所	人数	内容
4 月～翌 1 月に実施	希望する職員	精華町 国保病院	右の 1 のみ 4 0 人 2 から 5 まで通 して 7 人（年間） 抗体検査 平成 3 0 年 1 月 6 人 （1 名退職）	1. B 肝抗体検査（4 月） 2. ワクチン接種 1 回目（5 月） 3. ワクチン接種 2 回目（6 月） 4. ワクチン接種 3 回目（1 2 月） 5. 抗体検査（1 月） 6. 来年度の希望調査実施 2 / 2 0 ~ 7. 平成 2 8 年度ワクチン実施で抗体がつか なかった人に 4 回目追加接種 1 名 （6 月） 8. 平成 2 9 年度 4 回目追加接種予定 1 名 平成 3 0 年 6 月予定

【表 6：インフルエンザワクチンの接種】

実施日	対象者	場所	人数	内容
平成 2 9 年 1 1 月 1 5 日 1 1 月 1 6 日	希望する職員 希望する利用者	相楽作業所 相楽デイセンター	利用者 5 8 人 職員 4 6 人	精華町国保病院の医師が施設 に出張してのインフルエンザ ワクチン接種（1 回接種）

【表 7：職員研修】

実施日	対象者	場所	内容
平成 2 9 年 1 1 月 1 0 日	職員 1 2 名	相楽デイセンター	てんかん研修
平成 2 9 年 1 1 月 1 4 日	職員 1 2 名	相楽作業所	てんかん研修
平成 2 9 年 6 月 3 0 日	職員 4 4 名	相楽デイセンター	食事介助研修 講師：京都山城総合医療センター 言語聴覚士 草野由紀氏

※資料① 給食提供食数

平成29年度 給食提供食数(単位:食)【相 楽 作 業 所 分】

2017年度

相 楽 作 業 所 分	所属／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	相楽作業所 利用者	593	608	669	609	612	621	628	589	595	574	575	626	7,299
	心 利用者	125	112	142	126	133	131	125	118	112	112	120	132	1,488
	心 職員	59	50	62	57	59	57	56	52	52	49	56	59	668
	心合計	184	162	204	183	192	188	181	170	164	161	176	191	2,156
	ショートステイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	研修	0	0	20	8	28	21	2	20	30	0	4	0	133
	来客(ボラ)	3	5	3	1	1	4	2	3	2	1	2	3	30
	職員(相楽作業所)	439	438	486	413	414	419	436	402	439	441	439	471	5,237
	職員(その他の所属)	9	16	18	15	16	13	14	16	14	11	11	14	167
	総合計(食)	1,228	1,229	1,400	1,229	1,263	1,266	1,263	1,200	1,244	1,188	1,207	1,305	15,022
	給食提供日数(単位:日)	20	20	22	20	20	20	21	20	20	19	19	21	242

【相楽デイセンター分】

相 楽 デ イ セ ン タ ー 分	所属／日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	相楽デイセンター利用者	734	745	817	725	694	743	760	679	714	670	650	710	8,641
	ショートステイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	研修	0	3	16	2	4	27	5	11	7	6	32	9	122
	来客(ボラ)	6	4	2	1	3	1	1	1	1	1	1	1	23
	職員(相楽デイセンター)	215	243	258	237	210	246	248	223	228	193	190	200	2,691
	職員(その他の所属)	37	31	39	31	32	31	35	29	33	31	31	33	393
	総合計(食)	992	1,026	1,132	996	943	1,048	1,049	943	983	901	904	953	11,870
	給食提供日数(単位:日)	20	20	22	20	20	20	21	20	20	19	19	21	242

社会福祉法人相楽福祉会
平成 29 年度 相楽地域障害者生活支援センター事業報告（案）

＜計画に即した評価＞

1 基本方針

- （１） 障害のある方の地域における日常生活、地域生活を支援する。
- （２） 相談者の状況や障害特性に応じた適切な情報提供、サービス調整を行えるよう関係機関との連携を図る。
- （３） 多岐にわたる相談内容に対応できるよう、相談支援専門員としての資質向上と専門性を高める。

精華町から相談支援事業の委託を受け、精華町在住障害児者への相談対応を行った。

特定相談支援事業、障害児相談支援事業において、サービス等利用計画の作成・モニタリング業務を実施した。

京都府相談支援体制整備事業の補助を受け、圏域内の連携を図るとともに山城南圏域障害者自立支援協議会の運営を行った。

2 事業内容

（１） 精華町障害者相談支援事業の実施

① 相談支援事業の実施

- ・地域生活に関する相談への対応、サービス利用の調整を行う。
- ・精華町障害者虐待防止センター機能のうち、通報受理および相談等の受付対応を行う。

平成 29 年度相談件数・内容等別紙（相談件数としては精華町外も含む）

相談者数は障害児、障害者とも合わせ 465 人となっている。

相談方法として多いのは電話 492 件、訪問 312 件となっている。

相談内容としては、福祉サービス利用に関することが 482 件、障害および病状理解が 313 件となっている。

② 精華町地域障害者自立支援協議会の運営

- ・協議会全体の活動および専門部会の活動が円滑に進むよう、事務局機能を担う。

精華町地域障害者自立支援協議会活動状況
全体会

開催日	内容	参加人数
第1回 11月28日	部会活動報告 第5期精華町障害福祉計画について 意見交換 障害者差別解消法にかかる職員対応要領の作成について	14名
第2回 2月26日	部会活動報告 第5期精華町障害福祉計画について 意見交換 障害者差別解消法にかかる職員対応要領の作成について 第2次障害者基本計画の中間見直しについて	11名

専門部会

部会名	内容	開催回数
住民参加部会	精華町防災訓練について 精華町職員対応要領に関する団体ヒアリング等	5回
権利擁護部会	権利擁護（成年後見など）に関する検討	8回
発達支援部会	放課後等デイなど児童のサービスについて勉強会	1回

③障害支援区分認定調査の実施

- ・精華町からの委託により、精華町在住者の認定調査を実施する。

平成29年度件数 6件

(2) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業の実施

- ① 個々に応じたサービス調整を行い、サービス等利用計画の作成を行う。
- ② モニタリングにおいて、サービス利用が円滑に進んでいるか、サービス内容は適切か、変更の必要性がないかなど確認を行う。
- ③ 計画作成件数の増大に対応できていない状況を改善するため、他事業所への協力を検討していく。

- ・特定相談支援事業による障害者のサービス等利用計画作成件数 340件
 - ・障害児相談支援事業による障害児のサービス等利用計画作成件数 97件
- 合計437件（※平成28年度合計304件）

精華町、木津川市、宇治市、奈良市を事業実施地域とした。精華町以外の市町に関しては、原則相楽福祉会利用者へのサービス提供のみとした。（平成28年度からの相楽福祉会新規利用者については対応せず）

単純計算すると相談支援専門員一人当たり約145名の計画作成を行ったことになる。（相談支援専門員一人当たりの件数平成27年度70～90件、平成28年度100件）

計画作成に追われ、適切なサービス調整等を行うことができなかった。相談者からのサービス利用の希望のみを聞き、計画作成せざるを得ない状況が続いている。

モニタリングも、個別面談や事業所訪問をすることができず電話で状況確認するのみとなってしまった。行政から決められたモニタリング回数を行うことができず、次年度もこのままの現状で継続すると思われる。

放課後等デイサービスの事業所等で、特定相談支援事業、障害児相談支援事業を実施している事業所は出てきているが、当事業所から依頼するまでには至らなかった。

（３）京都府障害者相談支援ネットワーク事業における総合相談支援体制整備事業の実施（山城南圏域障害者総合相談支援センターの運営）

- ① ゼネラルケアマネジャー(専門相談員)を配置し、山城南圏域内の相談支援機関、事業所等への指導・助言を行う。
- ② 困難ケースなどの個別支援会議の開催を支援する。
- ③ 山城南保健所と連携をとり、山城南圏域障害者自立支援協議会の運営を行う。
- ④ 市町村地域自立支援協議会の活動について、協力・助言を行う。

平成29年度から、障害者相談支援ネットワーク事業の補助金が500万円から400万円に減額。平成28年度までは人件費として交付されていたが、補助金額のうち約100万円を事業費として使用するように指示が出た。

そのため、補助金額が減額されたのにも関わらず、事業費処理などの雑務的な業務が増えた。補助金に関して、平成30年度からは補助事業から委託事業に切り替わっている。

業務としては、圏域自立支援協議会の運営業務が中心となっており、困難ケースの支援等はあまりできていない。

市町村自立支援協議会の支援に関しては、木津川市自立支援協議会へ参加を行った。

山城南障害者自立支援協議会活動状況

全体会

開催日	内容	参加者数
3月13日	市町村協議会報告 平成29年度部会活動報告および平成30年度計画について	32名

専門部会

部会名	内容	開催回数
精神障害者部会	圏域内当事者、関係機関の交流を目的とした活動の実施	部会5回 合同クリスマス会 家族交流会・講演会1回
発達支援部会	発達障害者支援ファイル普及について ペアレントトレーニングの普及・啓発について	部会12回 研修会1回
就労支援部会	圏域内の就労支援状況について 障害のある方の働く場のつどい 障がい者が働く場の見学会	部会2回 2回 見学会1回
事業所連絡部会	地域生活支援事業日中一時支援・移動支援の報酬単価について、小部会にて検討。 日中一時支援、移動支援に関する事業所へのアンケート、利用されている親へのアンケートの実施 地域生活支援拠点、医療的ケアに関する部会設置のための検討	小部会2回 6回

その他・部会合同で圏域内事業所職員向けに研修会を開催した

開催日時	内容	参加者数
11月2日	地域生活拠点等について 講師 独立行政法人国立重度障害者総合施設のぞみの園 事業企画部事業企画・管理課 課長古川 慎治 氏	32名

<資料>

会議等への参加

日程	会議名	会場	参加者数
5月25日	精華町就学指導委員会	精華町役場	1名
7月13日	川西小学校区民生児童委員研修会	〃	1名
9月7日	権利擁護・成年後見制度推進にかかる学習会	しんらん交流館	1名
10月24日	京都府総合相談支援体制整備事業	京都府庁	1名
10月25日	南山城支援学校教職員研修会	南山城支援学校	1名
10月19日	認知症サポーター養成講座	精華町社会福祉協議会	3名
11月8日	障がい者の態様に応じた多様な委託訓練	あんず三山木	1名
11月6日、 1月29日	権利擁護・成年後見制度に関する意見交換会	木津川市社会福祉協議会	1名
1月5日	相談支援従事者研修（発達障害）	京都府精神保健福祉総合センター	1名
2月16日	南山城支援学校高等部3年生保護者進路説明会	南山城支援学校	1名
2月21日	南山城支援学校高等部3年生学習会	南山城支援学校	1名

H29年度相談件数														
年齢・障害別(実人数)														
<18歳未満>														
身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病等	その他	合計						
	男性	3	2	35	0	28	0	1	69					
	女性	0	0	21	0	16	0	2	39					
	合計	3	2	56	0	44	0	3	108					
<18歳以上>														
身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病等	その他	合計						
	男性	36	3	98	50	16	8	3	0	214				
	女性	20	6	69	39	6	1	1	1	143				
	合計	56	9	167	89	22	9	4	1	357				
市町村別相談方法(延人数)														
<18歳未満>														
奈良市	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会	関係機関	文書	FAX	その他	合計			
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
	市川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	精華町	31	85	17	72	1	7	18	0	3	234			
	木津川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	南山城村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	宇治市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	合計	32	85	17	72	1	7	18	0	3	235			
	<18歳以上>													
奈良市	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会	関係機関	文書	FAX	その他	合計			
	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
	市川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	精華町	253	186	67	421	4	33	157	0	1	5	1127		
	木津川市	57	21	13	69	4	13	9	0	0	4	190		
	南山城村	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	4		
	宇治市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	合計	312	207	81	492	8	46	166	0	1	10	1323		
相談内容(延人数)														
<18歳未満>														
福祉サービス	障害病状管理	健康・医療	不安・情緒	保育・教育	家族・人間	家計・経済	生活技術	就労支援	社会参加	権利擁護	その他	合計		
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	市川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	精華町	178	30	1	17	0	1	1	0	0	1	4	235	
	木津川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	南山城村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	宇治市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	179	30	1	17	0	1	1	0	0	0	4	236	
	<18歳以上>													
福祉サービス	障害病状管理	健康・医療	不安・情緒	保育・教育	家族・人間	家計・経済	生活技術	就労支援	社会参加	権利擁護	その他	合計		
	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	市川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	精華町	421	293	151	30	9	49	96	8	8	42	1130		
	木津川市	58	20	22	18	13	8	40	2	1	7	190		
	南山城村	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	4		
	宇治市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	合計	482	313	175	49	22	57	136	9	9	49	1326		

社会福法人相楽福祉会
平成29年度 相楽作業所 事業報告(案)

年間を通して、個々の支援計画に基づき「働く」場の提供と合わせて、個々に合わせた余暇や文化的活動を実施し、豊かで楽しいプログラムの提供をした。

作業所では高齢化も進んでおり、今年度も高齢対応のグループを編成し、ゆったりとした活動の場を継続してもらうけた。そのことによって安全面を確保し、個々の体調に合わせた活動をおこなった。

設備に関しては身障トイレを利用される方が増えてきたため、食堂横に増設した。また、陶芸作業場の照明をLEDに交換、厨房の入り口の修繕等積極的に設備の改修を行った。

<計画に即した評価>

1 基本方針

(1) 一人ひとりのニーズに基づき個別支援計画を作成し、他機関との連携を深め、随時見直しを加えながら日中支援を行う。

個々のアセスメントに基づき個別支援計画を作成し、各班で共有して支援を行った。10月にモニタリングを実施し、年度末には年間の支援内容の評価を行った。また、必要に応じて相談支援センター及びグループホーム、介護保険事業所、社会福祉協議会のサービス利用援助事業との連携を図った。

(2) 年齢等の利用者の変化に合わせた支援を行い、人権に配慮した支援が行われているか、日々意識的に点検していく。

職員自身でチェックシートを用いた自己評価を2回行い、個々を振り返る機会を作った。作業班単位での会議において個々の利用者への支援について確認し合う場を作ったが、後半業務に追われ途切れてしまう班もでた。今後、業務の整理を行い、会議を保証できる体制に整える必要がある。

(3) 加齢に伴い安心安全な環境を整え、引き続き利用者の状況に合わせたグループ編成を進める。

身障者トイレの増設、手すりの設置等の設備改善を行った。また、昨年に引き続き比較的年齢の高い方のグループでの生産活動を継続し、安全な環境での活動場所を提供した。

2 事業内容

- (1) 障害特性と利用者の希望を加味し、6つの班編成を行う。生産活動を中心に、個々の年齢や体力の状況に配慮して「生活介護」の事業を実施する。
- ・昨年度編成した、比較的年齢の高い方々の「緩やかなプログラムを行うグループ」を充実させるため、介護保険事業所等の見学や研修に参加する。
 - ・作業内容については、生き生きと活動できる媒体として、積極的にリサーチをし、充実した活動内容を模索する。

今年度も6班に分け、前記の通り、ゆったり過ごせる班を継続させることで、動きの大きな利用者と交錯することも少なくなり、お互いの活動を安全に実施することができた。介護保険事業所等の連携はグループホームを介して行ったが、実際の見学等には至らず今後の課題として残る。

高齢者施設等の見学は実施できず、幅広い内容の活動提供にまでは至らなかった。次年度の大きな課題として残った。

- (2) 社会参加や楽しみにつながるプログラム提供を行う
- ・継続して絵画や書道など作業以外の楽しみの場を提供する。
 - ・日帰り旅行、日中の活動班での外出を小グループ単位で実施する。
 - ・希望者に対してはクラブや余暇活動の場を設け、経験の場を広げる

今年度も絵画や書道、3B体操などのプログラムを実施した。絵画においては「きょうと障害者文化芸術推進機構」の協力を得て、京都市内のギャラリーにて展示会を行い、利用者の励みになった。

日帰り旅行は1～2名の利用者と職員の小グループでの実施となった。小さな単位で行うことで、利用者の多岐にわたるニーズや障害特性に合わせての内容となった。その他、クラブ活動として月に1回調理やボウリング等を楽しんだ。

- (3) 個別支援計画に基づき支援を行う
- ・本人のニーズに基づき支援計画を作成し、日中の活動班でのケース会議も行い、年度の間で見直しを行う。
 - ・支援内容の蓄積のため、年度末に個々の支援マニュアルを更新する。

例年通り、4月に個々の利用者への聞き取り、5月にサービス計画を立て、10月に見直し、3月に評価を行った。

利用者の変化に伴い「引継ぎ票」の見直しを行い、支援内容の普遍化ができる部分を整理し、引継ぎに役立てた。

- (4) 職員間の情報共有、連絡、連携を確実にし安定した業務を行う。
- ・職員会議や朝の打ち合わせで意識的に意見交換し、情報共有を行う。

朝夕のミーティング及び月1回の職員会議において情報交換を行い、職員間での意思統一の一助となった。しかしながら、個々の利用者支援を見つめ

る機会が不十分であり、今後ケース会議等の必要性を感じる。

(5) 安心・安全で快適な環境を整備していく

- ・加齢に伴い、身体状況の変化に対応するため、現在の和室部分に車いす対応のトイレを増設する。
- ・感染予防のため食堂の水道蛇口を自動水栓タイプに交換する。
- ・引き続き快適さと節電のため作業室の照明をLEDに交換していく。

身障者トイレの増設を行い、照明器具などの設備面の改善をはかった。
蛇口の自動水栓については次年度の課題となる。

<資料>

1 利用者の状況

1) 利用者数

相楽作業所 36名(男26名・女10名)

2) その他(平成30年3月31日現在)

- ・平均年齢 約47.9歳
- ・平均在籍年数 約21年9カ月
- ・平均障害支援区分 5.22

2 活動内容

1) 作業グループ構成 ()内はスタッフ数

陶芸A	陶芸B	EM	創作	箱	デイサービス
6名(4)	5名(3)	5名(2)	7名(6)	10名(5)	3名(3)

2) クラブ活動

各クラブは12月までにほぼ月1回平日に実施した。

カラオケ			ボウリング		調理			
①	②	③	①	②	①	②	③	④
3名	3名	4名	4名	5名	4名	4名	3名	4名

3) 旅行

今年度は日帰り旅行を計画・実施した。(来年度は1泊旅行も実施)

ひらかた パーク	通天閣	京都鉄道博 物館	はま寿司
2名(2)	2名(2)	2名(2)	1名(1)

奈良奥山ドラ イブウエー	奈良健康 ランド	高の原 イオン	京都タワー 周辺散策
1名(2)	2名(2)	1名(2)	2名(2)

4) 行事等

日 程	行事名・内容	参加利用者 数（ ）内は スタッフ数	備 考
4／11（火）	開所年記念写真展示	利用者全員	食堂にて実施
5／22（月）	ツアーオブジャパーン	希望者	作業所 前
5／28（日）	精華町ふれあいまつり	2名（2）	かしのき苑
5／30（火）	特定健診・がん検診（40歳以上）	5名	精華町役場
6／ 9（火）	特定健診・がん検診（40歳以上）	1名	精華町役場
9／12（火）	利用者検診（男性）	18名	精華病院
9／13（水）	利用者検診（女性）	9名	精華病院
10／ 6（金）	日帰り旅行	2名（2）	ひらかたパーク
10／11（水）	新規事業所地鎮祭	1名	武内神社
10／12（木）	日帰り旅行	2名（2）	通天閣
10／19（木）	日帰り旅行	2名（2）	京都鉄道博物館
10／24（火）	日帰り旅行	1名（1）	寿司屋
10／29（日）	精華町障害児者 ふれあいのつどい	17名 （12）	むくのきセンター
10／31（火）	日帰り旅行	1名（2）	奈良奥山
11／ 9（木）	日帰り旅行	2名（2）	奈良健康ランド
11／16（木）	インフルエンザ予防接種	23名	所内
11／17（木）	日帰り旅行	1名（2）	高の原イオン
11／19（日）	せいか祭り（販売）	自由参加	けいはんな公園
11／22（水）	日帰り旅行	2名（2）	京都タワー
11／30（木）	避難訓練	全員	所内
12／12（火）	歯科検診	全員	所内
1／19（金）	新年会	全員	所内
2／13（火）	歯科指導	全員	所内
3／15（木）	避難訓練	全員	所内
3／30（金）	お別れ会	全員	所内

5) その他

調理、お菓子作り、散歩、カラオケ、スヌーズレンー各Grで実施
 絵画（毎週水曜日）、書道（第2火曜日の午前）、医療マッサージ（週
 1回木曜日の午後）3B体操－希望者が参加

3 研修・出張（主だったもの）

日 程	研修名・内容	会 場	参加数
4／13（木）	法人新任研修	デイセンター	1名
4／18（月）	町ふれあいまつり実行委員会	かしのき苑	1名
4／23（日）	町グローバルネット総会	精華町役場	1名
4／24（月）	社協功労者選考委員	かしのき苑	1名
4／27（木）	法人新任研修	デイセンター	1名
5／10（水）	近畿知福協総会	兵庫	1名
5／11（木）	法人新任研修	デイセンター	1名
5／17（水）	町自立支援協議会	精華町役場	1名
〃	町生ごみ堆肥化推進委員会総会	精華町役場	1名
5／18（木）	町ふれあいまつり実行委員会	かしのき苑	1名
〃	相楽親の会総会	かしのき苑	1名
5／25（木）	せいかまつり実行委員会	かしのき苑	1名
5／26（金）	町ふれあいまつり準備	かしのき苑	1名
5／28（日）	町ふれあいまつり販売	かしのき苑	3名
6／ 5（月）	ライフサポートれい見学	八幡	2名
6／ 9（金）	町平和祭典実行委員会	精華町役場	1名
6／10（土）	法人内研修（救急法）	かしのき苑	8名
6／16（金）	京都府集団指導	文化パーク城陽	2名
6／26（月）	特別支援連携協議会	山城南保健所	1名
6／29（木）	町平和祭典実行委員会	精華町役場	1名
6／30（金）	町自立支援協議会（権利擁護部会）	精華町役場	1名
6／30（金）	法人内研修（食事介助）	相楽デイセンター	9名
7／ 3・24	行動援護支援者養成研修	京都テルサ	1名
7／12・26	行動援護支援者養成研修	京都テルサ	1名
7／ 3・10	行動援護支援者養成研修	京都テルサ	1名
7／18（火）	精華町人権啓発推進委員会	精華町役場	1名
7／27（木）	法人研修（精神障害者について）	相楽作業所	10名
8／ 2（水）	町ふれあいまつり実行委員会	精華町役場	1名
8／ 3（木）	京都府「虐待事例」学習会	キャンパスプラザ	1名
8／ 5（土）	平和祭典	精華町役場（ホール）	1名
8／ 9（水）	特定給食施設従事者研修	山城南保健所	1名
8／10（木）	町ふれあいのつどい実行委員会	精華町役場	1名

8 / 1 7 (木)	府福祉避難所研修	文化パルク城陽	1 名
日 程	研修名・内容	会 場	参加数
8 / 1 8 (金)	町人権啓発推進委員会	精華町役場	1 名
8 / 2 3 (水)	町人権委員会 研修	精華町役場 (ホール)	1 名
8 / 2 4 (木)	職員採用面接会	ハートピア京都	1 名
8 / 2 8 (月)	精華町ヒヤリング	精華町役場	1 名
8 / 2 9 (火)	町ふれあいのつどい実行委員会	精華町役場	1 名
9 / 6 (水)	町自立支援協議会 (権利擁護部会)	精華町役場	1 名
9 / 7 (木)	京都知福協役員会	福祉会館	1 名
9 / 1 3 (水)	町ふれあいのつどい実行委員会	精華町役場	1 名
9 / 1 9 (火)	法人新任研修	デイセンター	1 名
9 / 1 9 ・ 2 1	行動援護支援者養成	京都テルサ	1 名
9 / 2 2 (金)	法人研修 (発達障害)	相楽作業所	5 名
9 / 2 7 (水)	町人権推進委員会	町人権センター	1 名
9 / 2 9 (金)	京都知福協 幼児のつどい	府立体育館	1 名
1 0 / 2 (月)	せいかまつり実行委員会	精華町	1 名
1 0 / 3 ~ 5	行動援護支援者養成	京都テルサ	1 名
1 0 / 5 (木)	安全運転管理者講習会	アスピア山城	1 名
1 0 / 1 8 (水)	ふれあいのつどい実行委員会	かしのき苑	1 名
1 0 / 1 9 (木)	法人研修 (身体障害)	デイセンター	1 名
1 0 / 2 2 (日)	栄養士研修	京都女子大学	1 名
1 0 / 2 3 (月)	感染症予防講習会	山城南保健所	1 名
1 0 / 2 7 (金)	町自立支援協議会 (権利擁護部会)	精華町役場	1 名
1 0 / 3 1 (火)	精華町福祉計画策定委員会	精華町役場	1 名
1 1 / 2 (木)	町自立支援協議会研修	精華町役場	1 名
1 1 / 1 0 (金)	府・精華町・木津川市ヒヤリング	精華町役場	1 名
1 1 / 1 4 (火)	法人研修 (てんかん)	相楽作業所	1 2 名
1 1 / 1 6 (木)	地域福祉計画策定委員会	かしのき苑	1 名
1 1 / 2 8 (火)	町自立支援協議会	精華町役場	1 名
1 2 / 4 (月)	あけぼの学園るりけい寮利用者面接	あけぼの学園	1 名
1 2 / 7 (木)	法人新任研修	デイセンター	2 名
1 2 / 1 1 ・ 1 2	有償運送講習会	K S プラザ	1 名
1 2 / 1 6 (土)	タイムワークサポートクリスマス会	コミュニティー嵯峨野	1 名
1 2 / 1 7 (日)	けいはんなコンサート要員	けいはんなプラザ	1 名
1 / 4 (木)	新春賀詞交歓会 (町商工会)	商工会ホール	1 名
1 / 1 2 (金)	震災時の食事支援	文化パルク城陽	1 名

1 / 2 3 (火)	法人新任研修	デイセンター	1 名
日 程	研修名・内容	会 場	参加数
1 / 2 6 (金)	法人新任研修	デイセンター	1 名
1 / 3 1 (水)	自立支援協議会（権利擁護委員会）	精華町役場	1 名
2 / 2 1 (水)	相楽親の会	かしのき苑	1 名
2 / 2 6 (月)	町自立支援協議会総会	精華町役場	1 名
2 / 2 8 (水)	京都知福協役員会	福社会館	1 名
3 / 4 (日)	趣味の発表会（南稲地域行事）	南稲集会所	1 名
3 / 1 4 (水)	精華町地域福祉計画	かしのき苑	1 名
3 / 2 0 (火)	看護職ステップアップ研修	山城総合医療センター	1 名
3 / 2 2 (木)	町ふれあいまつり実行委員会	かしのき苑	1 名
3 / 2 3 (金)	町人権啓発推進委員会	人権センター	1 名
3 / 2 7 (火)	報酬改定説明会	文化パーク城陽	2 名
3 / 2 9 (木)	せいか祭り実行委員会	精華町役場	1 名

4 見学・実習

① 見学・来訪（合計 99 件）

行政関係・・・10 件

施設・・・14 件

学校関係・・・24 件

企業・・・25 件

親の会関係・・・6 件

地域団体・・・11 件

その他・・・8 件

② 実習（合計 19 人）

介護等体験 7 名 社会福祉士 2 名 中学生体験 2 名 高校生体験 2 名

施設体験実習 1 名 インターンシップ 5 名

5 所内事故・苦情

内 容			件 数
事 故 等	個人情報	給付費請求を2名の利用者間で取り違える。	1 件
	服薬ミス	1錠を落としてしまい飲み残し	2 件
	車両	バック時に前方左側を接触	1 件
		37kmの速度違反（始末書・けん責処分）	1 件
苦 情	車いすの取り扱いに気を付けてほしい		1 件

6 その他

日 程	内 容	備 考
4 / 26 完了	1階食堂横身障者用トイレ設置工事	1階食堂横
5 / 8 (月)	法人監事監査（事業）	乗光監事
5 / 9 (火)	法人監事監査（会計）	平松監事
5 / 15 (月)	法人理事会	デイセンター
5 / 20 (土)	所内一部照明をLEDへ交換（陶芸）	モリタ電化
5 / 18 (木)	相楽親の会総会	かしのき苑
5 / 23 (水)	作業場（EM）屋根修繕	キール（株）
5 / 31 (水)	評議委員会	デイセンター
6 / 8 (木)	厨房マンホール清掃	ビティー
7 / 6 (木)	活動場（デイサービス）窓金具修繕 女子トイレドア修繕	キール（株）
7 / 14 (金)	厨房外換気扇 設置	ビティー
9 / 10 (日)	ワックスがけ	フジハラ美装
10 / 5 (火)	食堂誘導灯・女子トイレ換気扇交換	モリタ電化
10 / 11 (水)	理事会（新規物件・スプリンクラー）	かしのき苑
11 / 30 (木)	避難訓練	相楽作業所
12 / 28 (木)	浄瑠璃寺餅つき	作業所1階
2 / 7 (水)	選任・解任委員会	作業所相談室
3 / 15 (木)	避難訓練	所内
3 / 19 (月)	理事会	相談室

社会福祉法人相楽福祉会
平成29年度 相楽デイセンター事業報告（案）

職員の退職や採用に伴う異動が多い1年であった。業務の引継ぎ等に係る負担も大きく、短期間での退職もあり現場への影響も大きかった。福祉分野への就職難は今後も続くと思われるが、現場に影響が及ぼさないよう願うばかりである。

施設の老朽化に対しては、大規模改修に向けた見積もりを行った。今後も計画的に進めていきたい。

「感染」に関しては今年度も12月から3月まで検温を実施した。インフルエンザに2名感染したが、拡大することは防げた。

事故や怪我が増加した。基本方針である「安心・安全」を再度周知徹底し過ごしやすい場所を保障していきたい。また苦情も増加した。ミスのない支援を心掛けると共に、丁寧な説明や支援が必要になってきている。

<計画に即した評価>

1 基本方針

（1）一人ひとりのニーズに基づき個別支援計画を作成し、日中活動支援を行う。

アセスメントや家庭への聞き取りを行い、年度初めと年度後半に個別支援計画を策定した。年度末には振り返りを行い、次年度へと引き継いだ。利用者個人には出来る限り聞き取り、家庭には書面で確認を行ったが職員、利用者、家族、管理職が同席した確認の機会を今後検討する必要を感じた。

（2）利用者の人権に配慮し、支援の向上を目指す。

支援の振り返りチェックシートは1回しか実施できなかった。言葉遣いや支援に関しては、随時指摘と振り返りが必要と感じた。

（3）安心・安全な支援を行い、プログラムの充実に努める。

事故や怪我の予防を継続して行った。エアコン改修工事や授産機器の修理、事務所LED工事等老朽化に伴う改修を行った。各班ともに生産活動以外に調理や外出等のプログラムを実施し、旅行やクラブと併せて楽しみ等のプログラムを実施した。

2 事業内容

(1) 指定障害福祉サービス「生活介護」を運営する

- ・個別支援計画に基づき、生産活動及び個別プログラムを実施する。
- ・日中活動を豊かにするため、楽しみのプログラム（クラブ・個別・旅行等）を継続する。
- ・改修工事後の元喫茶のスペースを有効活用する。
- ・「工賃」のあり方を見直し、生産活動に即した内容を再考する。

個別支援計画に基づきプログラムを実施した。

クラブや個別プログラムは本人の楽しみに応じて選択できるよう設定したが、一部計画が遅れて年度末に集中することがあった。今後は計画性を持って行うことが必要である。旅行は今年度日帰りにおいて予算を増やした「豪華パターン」を設定した。近年予算から行き先や内容が限られたりしたことに伴う改善案として試行したが、概ね好評だった。

改修後の喫茶スペースの活用はデイサービスグループのスペースや相性から活動の場として設定したが、特に必要としなかったためパン班の利用者の休息の場として使用した。

「工賃」に関しては検討の必要性を感じたが、改善にまでは至らなかった。ここ数年授産会計も赤字となり、工賃の変更(引き下げ)が必要となってきた。また授産売り上げに占めるパン班の実態からも他班との差別化を考える時期に来ている。

(2) 支援の質の向上

- ・「人権」を尊重した支援を行う。
- ・常に自身の支援を検証し、相互指摘できる様にチェックシートやヒアリングなどを継続する。
- ・日々の情報共有を行い、チームとして支援できる様に事業所会議、主担当会議、班会議を行う。
- ・介助方法や業務内容を定期的に見直し職員間で共有する。
- ・法人内部および外部研修を活用し、資質の向上に努める。

デイセンター会議は月1回実施した(12月のみ実施せず)。「振り返りシート」は実施したが、1回しか出来なかった。振り返りを常に意識していくよう、引き続き行っていきたい。

研修は法人内外の研修に参加した。(法人内研修7回に76名、3号研修に2名、有償運送研修に4名、他外部4研修に15名)

（３）安心安全の確保

- ・「安心・安全の確保」については最重要課題として継続する。
- ・「服薬」や「運転」に関して事故防止を継続する。
- ・インフルエンザ等の感染症に対して、予防の徹底と感染拡大を防ぐため、検温等の対応を行い健康管理に努める。
- ・利用しやすい環境を検討し、設備の改修に努める。
- ・送迎ルートの見直しを行い、安全な運転業務につなげる。
- ・年２回防災訓練を計画実施する。

事故数は昨年に比べて増加した。作業中の事故や転倒が多かったので、プロセスや介助方法の見直しが必要である。車両事故も増加したので安全意識の徹底を図りたい。

インフルエンザ等「感染」予防は、１２月～３月の間１日２回の検温を実施した。今年度は昨年度の検温のアベレージを基に、看護師とも相談し体調不良時の報告業務の軽減を図った。感染数はインフルエンザ２名、ノロウイルス１名であった。今後も感染防止のため早めの対応を継続していきたい。

防災訓練は２回実施した。車いすの方も階段を移動する形を継続した。避難時に必要な物品も検討している。

（４）事業所機能の充実

- ・設備、車両等の改修を計画的に実施し、エアコン改修や車両の新規契約（リース）などを行う。
- ・職務軽減、業務の効率化を検討、実施する。
- ・他事業所、行政、関係機関と連携し業務を行う。

エアコンの改修も引き続き実施した。残りの工事も随時行う予定。施設の老朽化から大規模改修工事の見積もりを行った。予算規模に照らし合わせて随時行っていくたい。

リース車両を新規契約した、利用者の障害特性に合わせた車両整備を引き続き行っていくたい。

<資料>

１ 利用者の状況（平成３０年３月３１日現在）

- ・利用者数：４４名（男２２名、女２２名）
- ・平均年齢：約４０．８６歳
- ・平均在籍年数：約１９年１１か月
- ・平均障害支援区分：４．９３

2 活動内容

(1) 作業グループ

例年同様の構成で活動した。生産活動グループは、前年度比で売り上げは減少した。

パン・喫茶	紙漉	染織	花工芸	デイサービス
11名(6)	8名(4)	10名(5)	10名(4)	5名(5)

() 内はスタッフ数

(2) クラブ活動

各クラブ平日に実施。費用は事業所負担とした。

クラブ名	カラオケ			プール	
	1 A	1 B	2	A	B
利用者数	6名	5名	5名	2名	3名
スタッフ数	4名	3名	2名	2名	3名

クラブ名	音楽	散歩	調理	ゆったり	ボウリング
利用者数	2名	5名	8名	3名	3名
スタッフ数	1名	4名	3名	3名	1名

(3) 旅行

今年度は日帰り 8 グループと、宿泊 1 グループを実施した。宿泊は前半グループを実施した。

日帰り

旅行名	カップヌードル ミュージアム	海遊館		U S J	
		①	②	①	②
参加者数	3名	3名	3名	2名	3名

旅行名	嵯峨野トロツコ列車		神戸
	①	②	
参加者数	1名	2名	3名

宿泊

白浜・たま電車
4名

(4) 行事等

日 程	行事名・内容	参加利用者数 () は スタッフ数	場 所
4 / 8 (土)	木津川市桜まつり	25名 (15)	木津川市 中央体育館
6 / 9 (金)	オムロン交流会	27名 (16) オムロン社員 19名	デイセンター
6 / 28 (水)	木津川台保育所七夕交 流会	36名 (20) 園児20名 (4)	デイセンター
8 / 3 (木) ・ 10 (木)	班外出 (パン) 3G に分 かれて実施	9名 (6)	外食
10 / 14 (土)	デイセンター交流会	26名 (22) 家族8名	大正池 グリーンパーク
10 / 25 (水)	日帰り旅行	3名 (2)	カップヌードル ミュージアム
10 / 28 (土)	木津川市スポーツ大会	22名 (13)	相楽台小学校
11 / 6 (月)	南山城支援学校芸術祭	9名 (6)	支援学校
11 / 10 (金)	日帰り旅行	3名 (3)	海遊館①
11 / 17 (金)	日帰り旅行	3名 (2)	海遊館②
11 / 22 (水)	班外出 (パン)	9名 (6)	ニフレル
11 / 24 (金)	日帰り旅行	2名 (2)	USJ①
12 / 13 (水)	同志社国際学院キャロ リング	15名 (5) 生徒60名 教師4名	デイセンター
12 / 15 (金)	日帰り旅行	3名 (3)	USJ②
12 / 19 (火)	木津川台保育園 クリスマス会	27名 (14) 園児24名 職員3名	デイセンター

日 程	行事名・内容	参加利用者数 () は スタッフ数	場 所
1 2 / 1 9 (火)	利用者の会 (ボウリング)	2 3 名 (1 2)	デイセンター
1 / 3 0 (火)	利用者の会 (新年会)	2 4 名 (8)	デイセンター
2 / 9 (金)	班外出 (紙漉)	8 名 (5)	ニフレル
2 / 2 7 (火)・ 3 / 2 2 (木)・ 2 6 (月)	班外出 (パン) 3 G に分 かれて実施	1 0 名 (6)	外食
3 / 2 (金)	日帰り旅行	1 名 (2)	トロッコ列車①
3 / 5 (月)	利用者の会 (お疲れ様 会)	4 名 (1)	大阪王将
3 / 9 (金)	班外出 (花工芸)	9 名 (4)	ふおとん
3 / 1 5 (木) ～ 1 6 (金)	宿泊旅行	4 名 (3)	白浜・たま電車
3 / 1 6 (金)	デイサービス音楽会	1 1 名 (8)	デイセンター
3 / 2 0 (火)	日帰り旅行	3 名 (3)	神戸
3 / 2 3 (金)	日帰り旅行	2 名 (2)	トロッコ列車②

(5) その他

調理、お菓子作り、散歩、カラオケ、スノーブレン

・・・各グループで実施。

絵画 (週 1 回)、音楽プログラム (月 2 回)、書道 (月 1 回)、医療マッサー
ジ (週 1 回) ・・・希望者が参加

3 研修・出張

日 程	研修名・出張先	主催／行先	参加
4 / 1 3 (木)	法人内新採職員研修、 他 4 / 2 7 (木) 5 / 1 1 (木)	相楽福祉会	2 名
4 / 2 6 (水)	浄瑠璃寺打合せ 他 5 / 9 (火) 1 1 / 1 8 (土) 1 2 / 5 (火)	浄瑠璃寺	1 名
5 / 6 (土)	おさかなフェスタ販売	アスピア山城	1 名

日 程	研修名・出張先	主催／行先	参加
5 / 9 (火)	自立支援協議会、 他 5 / 1 5 (月) 2 4 (水) 2 9 (月) 6 / 8 (木) 2 7 (火) 7 / 5 (水) 1 4 (金) 8 / 8 (火) 2 9 (火) 9 / 1 4 (木) 1 0 / 3 1 (火) 1 1 / 9 (木) 1 4 (火) 1 2 / 4 (月) 2 0 (水) 1 / 3 0 (火) 2 / 1 4 (水) 3 / 1 3 (火) 2 2 (木)	山城南保健所	1 名
5 / 1 3 (土)	同志社国際学院きづな祭販売	同志社国際学院	2 名
5 / 1 4 (日)	自閉症 e サービス研修、 他 6 / 1 1 (日) 7 / 9 (日) 7 / 3 0 (日)	自閉症 e サービス	2 名
5 / 2 2 (月)	福祉有償運送運転協力者講習会 他 5 / 2 3 (火)	移動送迎支援活動情報センター	1 名
6 / 2 (金)	キャリアアップ(初任者)研修、他 6 / 2 9 (木) 8 / 2 2 (火)	京都府社協	1 名
6 / 6 (火)	喀痰吸引等 3 号研修、他 6 / 1 5 (木)	京都福祉サービス協会	1 名
6 / 7 (水)	浄瑠璃寺「行者まつり」販売	浄瑠璃寺	1 名
6 / 1 0 (土)	法人内研修「救急法」	かしのき苑	1 2 名
6 / 1 6 (金)	障害福祉サービス事業者等集団指導	京都府	1 名
6 / 1 9 (月)	福祉有償運送運転協力者講習会 他 6 / 2 0 (火)	移動送迎支援活動情報センター	1 名
6 / 2 8 (水)	ケース会議、 他 9 / 2 7 (水) 1 2 / 6 (水) 3 / 7 (水)	そらーる三山木	2 名
6 / 3 0 (金)	法人内研修「嚙下」	デイセンター	1 8 名
7 / 3 (月)	強度行動障害基礎研修、 他 7 / 1 0 (月)	京都府社協	1 名

日 程	研修名・出張先	主催／行先	参加
7 / 1 2 (水)	強度行動障害基礎研修、他 7 / 2 6 (木)	京都府社協	1 名
7 / 2 7 (木)	法人研修「精神障害」	作業所	1 3 名
8 / 3 (火)	施設長研修	京都府社協	1 名
8 / 1 0 (金)	精華町障害児者ふれあいの つどい実行委員会、他 8 / 2 9 (火) 9 / 1 3 (水) 1 0 / 1 8 (水) 1 0 / 2 7 (金) 1 2 / 2 6 (火)	かしのき苑	1 名
8 / 1 9 (日)	木津川台夏祭り販売	中央公園	1 名
8 / 2 4 (木)	就職フェア	京都府社協	1 名
9 / 4 (月)	喀痰吸引等 3 号研修、他 9 / 1 2 (火)	京都福祉サービス協 会	1 名
9 / 2 0 (水)	ケース会議	精華町役場	2 名
9 / 2 1 (木)	木津川市スポーツ大会実行 委員会	木津川市役所	1 名
9 / 2 2 (金)	法人研修「広汎性発達障 害」	作業所	8 名
9 / 2 9 (金)	キャリアアップ（初任者） 研修、他 1 0 / 1 2 (木) 1 2 / 5 (火)	京都府社協	1 名
1 0 / 3 (火)	強度行動障害実践演習、他 1 0 / 4 (水) 5 (木)	京都府社協	2 名
1 0 / 1 9 (木)	法人研修「身体障害者の理 解」	デイセンター	1 1 名
1 0 / 2 5 (水)	木津川市策定会議、他 1 2 / 2 6 (火) 2 / 1 3 (火)	木津川市役所	1 名
1 0 / 2 9 (日)	精華町障害児者ふれあいの つどい	むくのき苑	1 名
1 1 / 2 (木)	自立支援協議会研修	山城南保健所	1 名
1 1 / 6 (月)	強度行動障害実践演習、他 1 1 / 7 (火) 8 (水)	京都府社協	1 名
1 1 / 1 0 (金)	法人内研修「てんかん」	デイセンター	1 2 名
1 1 / 1 1 (土)	同志社国際学院きづな祭販 売	同志社国際学院	2 名
1 1 / 2 9 (水)	安全管理者講習	京都府公安委員会	1 名
1 2 / 2 1 (木)	成年後見申立、申請	京都家庭裁判所	1 名

日 程	研修名・出張先	主催／行先	参加
12／21（金）	ほっとはあと会議	デイセンター	1名
1／9（火）	強度行動障害実践演習、他 1／10（水） 11（木）	京都府社協	1名
2／15（木）	ケース会議	南京都病院	2名
2／15（木）	利用者入院に伴う面会	阪大病院	1名
2／17（土）	ほっとはあと販売会	高の原イオン	2名
2／19（月）	強度行動障害基礎研修、他 2／27（火）	南山城学園	2名
3／4（土）	福祉有償運送運転協力者 講習会 他 3／5（日）	木津川市社協	2名
3／7（水）	ケース会議	阪大病院	3名
3／14（水）	ほっとはあとマナー研修	いづみホール	4名
3／27（火）	報酬改定会議	文化パーク城陽	1名

4 見学・実習

（1） 見学・来訪（合計55件）

企業・・・・・・・・34件

学校関係・・・・・・・・11件

施設・・・・・・・・5件

その他・・・・・・5件

（2） 実習（合計13人）

介護等体験・・・・・・・・8人

保育士実習・・・・・・・・5人

5 所内事故・苦情

前年度比で、総件数は増加した。安全意識の向上が必要である。苦情も増加した。適切で丁寧な対応が求められている。

内 容		件 数	備 考
事 故 等	車両接触	3件	車両接触
	怪我	10件	転倒、火傷、骨折等
	個人情報	2件	アンケート渡し忘れ等
	感染症	3件	インフルエンザ感染等
	服薬ミス	2件	渡し間違い
	その他	2件	
苦 情	支援について	10件	文書の受け渡しや対応、請求について

6 その他

日 程	内 容	備 考
4 / 6 (木)	浄水器カートリッジ交換、 他 3 / 2 6 (月)	メイスイ
4 / 1 5 (土)	事務所LED工事	モリタ電化
4 / 1 6 (日)	きらりデイセンター使用、他 5 / 2 1 (日) 6 / 1 8 (日) 7 / 1 6 (日) 9 / 1 7 (日) 1 0 / 1 5 (日) 1 1 / 1 9 (日) 1 2 / 1 7 (日) 1 / 2 1 (日) 2 / 1 0 (土) 3 / 1 8 (日)	
4 / 2 3 (日)	自立生活体験学習、他 5 / 1 4 (日) 6 / 2 5 (日) 7 / 2 3 (日) 8 / 2 7 (日) 9 / 2 4 (日) 1 1 / 2 6 (日) 1 2 / 2 3 (土) 1 / 7 (日) 2 / 2 5 (日) 3 / 1 8 (日)	
4 / 2 7 (木)	パン班オープン炉床板交換	三鈴工機
5 / 1 5 (月)	法人理事会、他 5 / 3 1 (水) 1 0 / 1 1 (水) 3 / 1 9 (水)	
5 / 1 9 (金)	前期個別支援計画書作成	
5 / 2 3 (火)	エアコン修理	パナソニック産機
5 / 2 6 (金)	掃除機寄贈	モリタ電化
6 / 1 (木)	親の会販売寄贈物品購入、パソ コン、 草刈り機、草刈りバリカン	
6 / 5 (月)	精華町特定健診・がん検診 2 名参加、他 7 (水) 3 名、8 (木) 2 名	精華町役場
6 / 1 5 (木)	利用者ボーナス、他 1 2 / 1 5 (金)	

日 程	内 容	備 考
6 / 1 6 (金)	防災訓練利用者 3 8 名職員 2 1 名参加、 他 1 1 / 1 (水) 利用者 3 8 名 職員 2 0 名	デイセンター
6 / 2 2 (木)	リース車両納車 (シエンタ)	トヨタレンタリース
6 / 2 4 (土)	高圧交流負荷開閉器工事	モリタ電化
7 / 5 (水)	2階医務室温水器交換	喜多商店
7 / 1 1 (火)	精華町乳がん検診 2 名参加、他 2 5 (火) 1 名参加	学研都市病院
7 / 2 8 (金) ～ 3 0 (日)	白キャラバンエアコン修理	日産自動車木津川台店
8 / 7 (月)	台風の為午後休所	
9 / 5 (火)	健康診断男性 1 6 名参加	精華町国保病院
9 / 6 (水)	健康診断女性 1 9 名参加	精華町国保病院
9 / 1 0 (日)	ワックスがけ	フジハラ美装
9 / 1 2 (火)	大雨洪水警報発令の為 2 時間 遅れで開所	
1 0 / 2 3 (月)	大雨洪水警報発令の為 2 時間 遅れで開所	
1 0 / 3 1 (火)	後期個別支援計画書作成	
1 1 / 1 5 (水)	インフルエンザ予防接種利用 者 2 6 名職員 2 3 名	精華町国保病院来所
1 2 / 1 (金)	エアコン改修工事契約	三浦産業
1 / 5 (金) ～ 8 (金)	エアコン改修工事	三浦産業
1 / 2 5 (木) ～ 2 9 (月)	白エブリ修理	岩前産業
1 / 3 0 (火)	精華町骨密度健診 3 名参加	精華町役場
2 / 2 1 (水) ～ 2 3 (金)	デイセンター公用車ドライブ レコーダー装着 (7 台)	タイヤ館木津
3 / 1 1 (日)	貯水槽清掃	オリックスファシリティーズ
3 / 2 0 (火)	支援区分認定聞き取り 1 名、他 2 2 (木) 1 名、2 8 (水) 1 名	精華町・京田辺市

社会福祉法人相楽福祉会
平成29年度 精華地域活動センター「心」事業報告（案）

今年度は新しく定期の販売先を開拓することができ、また初めてのイベントに出店することでいつもは来店されない方に利用して頂くことができた。販売に行くことは利用者のモチベーションアップにつながり、また直接地域住民の方々と交流することができる機会になるため今後も大切にしていきたい。

介護サービスを利用している高齢の利用者や他事業所を利用する方については、小さな変化や情報を共有することでよりよい支援を行うことができた。

お客様のニーズは日々変化していくためパンや喫茶メニューの見直しを定期的に行った。今後も全体的な収支バランスを大事にして効率的な運営をしていく必要がある。

<計画に即した評価>

1 基本方針

（１）利用者一人ひとりのニーズに基づいた個別支援計画を作成し、豊かな時間を過ごせるよう日中活動の支援を行う。

各利用者にアセスメントを行い、仕事や健康、楽しみを含めた支援計画を作成した。10月と年度末に見直しを行い、個々の利用者の変化やニーズに応じた支援を行った。

（２）人権を尊重した支援が行えているのか意識的に見直し、より良い支援を目指す。

毎日のミーティングや会議、チェックシートを使って人権を尊重した支援が行えているのか振り返る時間を設けた。今後も意識的に不適切な言葉遣いや支援を行っていないか見直す時間を大切にしていきたい。

（３）地域で活動することを通して住民の方々との交流を積極的に深める。

地域の方からの販売や注文、休所日の喫茶開店の依頼には可能な限り対応し、積極的に交流を深めることができた。

2 事業内容

（１）（クリエイティブスペース）ていすとは一体的に生活介護事業を運営する。

各事業所において喫茶やパン販売、革作業や下請け作業を行い、一体的に事業を運営することができた。

（２）人権を尊重し、個別支援計画に基づいた支援を行う。

- ・利用者の思いを丁寧に聞き取り、ニーズに沿った支援を行う。
- ・支援内容について年度の間で見直しを行うとともに、日々ニーズに沿っているのか検討する。
- ・支援マニュアルを年度末に更新し、個々の利用者の変化に対応していく。
- ・外部や内部研修に積極的に参加し、支援の向上に努める。

各個人にアセスメントを行った上で5月に個別支援計画を作成し、10月に中間見直し、3月に総括を行った。日々のミーティングや月1回の会議で各利用者の状態や支援内容について話し合い、年度末には支援マニュアルの見直しを行うことで支援の方向性を統一することができた。

法人内の研修には積極的に参加することができたが、外部研修へは体制的に参加しにくい状況だった。支援の質の向上のためできる限り参加する機会を増やしていきたい。

(3) 喫茶こころの運営。

- ・「喫茶こころ」の運営を通して地域の方々と交流を深める。
- ・地域の行事やイベントに積極的に参加する。
- ・販売先や作業内容を見直し、作業収入と支出のバランスを取りながら収入の安定を図る。
- ・年齢や体力、障害の状況に応じた作業を設定する。

今年度は新たな場所で定期的に販売することができ、また地域の方からの依頼で休日に喫茶を臨時開店することで、普段来店されない地域の方々とつながることができた。毎年参加しているイベントでのパン販売は直接住民の方々と交流できる良い機会になっている共に、いつもと違う雰囲気での販売となるため利用者にとって楽しみの一つになっている。

年齢や体調、状況に応じて作業内容の検討を行い、意欲をもって取り組めるようにアプローチした。

(4) 安心、安全な環境を整える。

- ・作業環境や作業内容を見直し、安心安全に作業ができる環境を整える。
- ・年齢の高い方が体力を維持しながら安心して過ごせるように、他法人事業所とも連携していく。

厨房内はスペースが狭いため、作業内容や作業場所について見直しを行いより安全にスムーズに動けるように工夫した。

介護保険事業所と連携し、年齢の高い方が安心して豊かに過ごすことができる環境作りを行った。

(5) 職員間の情報共有、連絡、連携を確実にし安定した業務を行う。

- ・ミーティングや職員会議の時間を活用し、情報の共有や積極的な意見交換を行う。
- ・スムーズに業務が進むよう業務整理を行い、役割分担を明確にする。

毎日のミーティングや月1回の会議で情報の共有や意見交換を行った。グループホームの利用者については、グループホーム職員と情報共有と必要に応じて支援の統一を行った。

業務については全体を把握した上で役割分担を明確にしたため、スムーズに進めることができた。

<資料>

1 利用者の状況（平成30年3月31日現在）

- ・利用者数 8名（男2名・女6名）
- ・平均年齢 約48.3歳
- ・平均障害程度区分 約4.25

2 活動内容

・喫茶こころ

毎週火曜日～土曜日に営業（第1土曜日、祝日は休業）

5月、11月、12月、2月にかしのき苑、または地域の行事に伴い臨時開所（翌火曜日もしくは翌土曜日に代休）

・配達

平均 14.5回／月

配達先 ・精華町役場職員

・地域の小学校（学童保育）

・地域の保育所職員 など

・販売

日 程	販売先	備 考
毎月1回	南山城支援学校	
毎月1回	精華町庁舎販売	
毎月1回	むくのきセンター	2017年4月から開始
毎月2回	発達支援センターすてっぷ	
毎土曜日	J A精華町農産物直売所（J A祝園）	J Aへ委託
5／22(月)	ツアー・オブ・ジャパン京都	職員2名参加
5／28(日)	ふれあいまつり	臨時開所 利用者7名・職員4名
6／18(日)	文化フェスティバル	職員2名
7／ 8(土)	ひかりだい保育所夏祭り	利用者6名・職員3名
7／25(火)	夏季地域学校	注文
8／19(土)	精華台一丁目夏祭り	利用者6名・職員3名
8／19(土)	光台実行委員会・光台夏祭り	注文
10／15(日)	ベビーゴーランド	職員2名
10／21(土)	こどもまつり	利用者3名・職員2名
10／29(日)	精華町障害児者ふれあいのつどい	注文／職員2名
11／ 5(日)	せいかマラソン	職員2名
11／19(日)	せいか祭り	臨時開所 利用者6名・職員3名参加

日 程	販売先	備 考
1 2 / 3 (日)	チャリティーフェスティバル	臨時開所 利用者 7 名・職員 3 名参加
1 / 1 0 (水)	シルバー人材センター 新年会	利用者 2 名・職員 1 名参加
2 / 4 (日)	鹿背山婦人会	注文
2 / 1 1 (日)	相楽の文化を創るつどい	臨時開所 利用者 6 名・職員 3 名参加
3 / 2 (金)	精華町人権シネマサロン	利用者 3 名・職員 1 名参加
3 / 3 (土)	精華町人権シネマサロン	利用者 3 名・職員 1 名参加
3 / 5 (日)	ドッジビー競技大会	職員 2 名参加
3 / 2 5 (日)	せいかお宝発見ウォーク	職員 2 名参加

・その他

パソコン（毎火曜日）

絵画（毎水曜日、作業所のプログラムに参加）、

ししゅう（週 1 回／毎火曜日・毎木曜日）

ウォーキング・カラオケ・調理・外食など（第 1 土曜日）

体重測定（月 1 回）

3 ボランティア活動

日 程	ボランティアグループ	利用者数
第 3 水曜日	収集ボランティアさくらの会	1 名（4～11 月）
第 3 木曜日	古布裁断ボランティアこっとな	1 名

4 行事等

日程	行事名・内容	利用者数（職員数）
4 / 1 (土)	花見	6 名（3 名）
6 / 7 (水)	精華町特定健診（男性）	2 名
6 / 8 (木)	精華町特定健診（女性）	2 名
8 / 5 (土)	調理	6 名（3 名）
8 / 2 3 (木)	子宮頸がん検診	1 名
9 / 1 3 (水)	健診（女性）	5 名（1 名）
1 0 / 6 (金)	日帰り旅行（神戸南京町）	7 名（4 名）
1 0 / 2 9 (日)	精華町障害児者ふれあいのつどい	3 名（1 名）
1 1 / 1 6 (木)	インフルエンザ予防接種	6 名（3 名）
1 2 / 3 (日)	チャリティーフェスティバル	7 名（3 名）
1 2 / 1 2 (火)	歯科検診	8 名
1 / 4 (木)	新年会（調理）	7 名（3 名）
1 / 5 (金)	初詣	7 名（3 名）

日程	行事名・内容	利用者数（職員数）
1 / 30(火)	骨密度検査	1名
2 / 13(火)	歯科指導	8名

5 研修・出張

日 程	研修名・内容	会 場	参加数
6 / 6(火)	ボランティアセンター運営委員会	かしのき苑	1名
6 / 10(土)	法人内研修（「救急法」について）	かしのき苑	1名
6 / 30(金)	法人内研修（「食事介助」について）	デイセンター	2名
7 / 12(水) 7 / 24(月)	京都府強度行動障害支援者養成研修 （基礎研修）	京都テルサ	1名
7 / 27(木)	法人内研修 （「精神障害者の理解」について）	相楽作業所	2名
9 / 19(火) 9 / 21(木) 9 / 22(金)	京都府強度行動障害支援者養成研修 （実践研修）	京都テルサ	1名
10 / 19(木)	法人内研修（「重度身体障害者の支援」）	デイセンター	3名
11 / 14(火)	法人内研修（「てんかん」について）	作業所	3名
1 / 9(火) ～ 1 / 11(木)	京都府強度行動障害支援者養成研修 （実践研修）	京都テルサ	1名
3 / 14(水)	みんなのみだしなみ・マナー講座	いづみホール	利用者2名 職員1名

6 所内事故・苦情

内 容		件数
事故等	車両（4 / 11 バック時に車両後方部を接触）	1件
苦情		0件

7 その他

日 程	内 容
6 / 5(月)	食品営業許可更新手続き
6 / 10(土)	控室に網戸設置
6 / 13(火)	山城南保健所立入検査
6 / 17(土)	喫茶ところ害虫駆除
6 / 22(木)	南山城支援学校保護者見学
7 / 1(土)	オープン入替
8 / 1(火) ～ 3(木)	南山城支援学校生実習1名

日 程	内 容
8 / 2 2 (火) ～ 2 4 (木)	南山城支援学校生実習 1 名
8 / 2 3 (水)	大雨の為一部利用者個別送迎
9 / 8 (金)	ヴォクシー点検
9 / 1 2 (火)	警報発令のため開所時間変更、個別送迎
9 / 1 4 (木)	社会福祉法人「若葉」因島であいの家 4 名見学
9 / 2 0 (水)	避難訓練（かしのき苑と合同）
1 2 / 1 6 (土)	喫茶こころ害虫駆除
1 / 1 7 (水)	南山城支援学校保護者見学
2 / 1 6 (金)	ドライブレコーダー設置（ヴォクシー）
2 / 2 7 (火)	上粕小学校（生徒 2 2 名・先生 2 名）見学
3 / 2 7 (火)	避難訓練（かしのき苑と合同）

社会福祉法人相楽福祉会

平成29年度（クリエイティブスペース）ていすと事業報告（案）

年度途中の9月より利用者が1名増えた事もあり、場所は手狭に感じるようになってきた。同時期にエコ・クリーン相楽との事業所合築の話が具体化し、年度下半期は来年度に向けて活動の見直しや引っ越しの準備が多くなってきた。

革作業は注文や売上が増え、利用者への工賃も多く支払えるようになった。日中活動が安定化し、毎日の健康づくりの散歩や念願であった3年ぶりの一泊旅行の実施など利用者からの希望を聞き入れ易い環境が整った。

<計画に即した評価>

1 基本方針

- | |
|---|
| 1 利用者一人ひとりのニーズに基づき個別支援計画を作成し、個性を大切に日中支援を行う。 |
|---|

5月に個別支援計画を作成、10月に見直しを行った。支援計画をもとに日々の反省会の中で作業内容の検討や日中の過ごし方を話し合った。

話し合いの中で事業所の目指す方向性や、作業内容の検討、利用者への対応、言葉遣いに対して話しあう機会を設けた。

- | |
|---|
| 2 作業活動を通じて経験と出会いを大切にし、地域とのより広い関係の構築を目指す |
|---|

作業を中心にした事業所作りを行った。個々の利用者が作業しやすいよう補助具を用意し、作業中の約束事なども確認し合った。革作業の委託店は7店舗になった。

- | |
|--|
| 3 年齢及び障害の状況に合わせた安心・安全な支援を行い、利用者の人権を尊重する。 |
|--|

障害の重度化、高齢化が課題となる中、どの利用者も通院の機会が増えた。大きな事故や怪我は起こらなかったが1月にはインフルエンザの流行から4日間休所する事があった。

- | |
|---|
| 4 新規利用者の受け入れをすすめると共に、合理的な事業所合築に向けて検討を行う |
|---|

年度途中にエコ・クリーン相楽との合築と事業所の引っ越しが具体化した。それに合わせて話し合いの場を持ち、合築の準備・活動の見直しを行った。

平成30年度に新卒利用者を2名受け入れる事が決定。それ以外でも数年後を見据えての見学や実習などが多く地域からのニーズを感じた。

2 事業内容

(1) 精華地域活動センター「心」と一体的に生活介護事業を運営する。

直接の交流はなかったが、パン製造と革作業／下請け作業と各々の事業所で生活介護事業を展開した。革製品の委託店のひとつとして納品を行った。来年度はエコ・クリーン相楽と合築して、「わーく相楽」として事業運営を行う。

(2) 日中活動において、利用者一人ひとりの個別支援計画に基づき支援する。

- ・個別支援計画の定期的な見直しを行い、細やかな意見の聞き取りと、より充実した支援を行う。
- ・毎日のケース検討により、支援の経過や課題等をスタッフ間で共有する。

5月に個別支援計画の作成、10月に見直し、3月に支援計画の総括を行った。アセスメントや支援計画を元に、毎日の反省会においてスタッフ間で話し合い、支援の方向性を検討した。また利用者の持つ課題によっては、他事業所も交えてのケース会議を開催した。

(3) 作業活動を主体に、やりがいや責任感が持てる仕事を提供する。

- ・質の高い革製品作りを行い、地域や委託店舗と連携した活動を目指す。
- ・個々に合わせた下請け作業を請け負い、継続して提供する。

革製品については前年度に続いて利用者の技術が上がり、注文や売り上げも上がっている。夏冬とボーナスを支給する事ができた。外部からの注文が増えた一方、製品の作り直しや注文間違いなども増えている。今後クレームに発展しないよう慎重な仕事が求められる。また前年からの課題で材料費の増大や作業目的のブレも見られる。スタッフ間の意識を統一する必要があると感じられる。

(4) 安心・安全に務めた事業所運営を行う

- ・日々の情報共有の中からヒヤリハット事例の収集とその対策に取り組む

大きな事故や怪我はなかったが、冬場にインフルエンザの流行から4日間休所する事があった。高齢の利用者もいる事から、感染予防の対策を学んでいく必要がある。

<資料>

1 利用者の状況

男性 6名 女性 4名 合計 10名（職員3名）
 平均障害支援区分 4.4
 平均年齢 44.2歳

2 日中活動内容

(1) 革作業

革製品の製作。（財布、キーケース など）
 木津川市、精華町、加茂町等の委託店舗で販売。

(2) 下請け作業（新栄工業）

「ノンリーク金具（ウレタンシール貼り）」「紙管（筒入れ）」
 「からみ（輪っか）」の各種作業を実施した。

(3) 委託店舗先 訪問（納品）

店舗によるが1～3ヶ月毎に、製品の入れ替えを行った。

(4) タグ制作

牛乳パックを再利用して法人内で使う値札作りを担当した。

(5) その他

カラオケ（3ヶ月に1回）、絵画（作業所プログラム毎週）、
 木津育栄会とお菓子づくり（年2回）、
 体重測定（月1回）、入浴支援（一部利用者に週1回程度）

3 行事関係

日 時	内 容	場 所
4月13日	お花見	平城京跡地
5月17日	外出	宇治植物園
6月21日	木津育栄会お菓子作り	保健センター
7月21日	カラオケ外出	レインボー
8月25日	外出	イオン高の原
9月 5日	避難訓練	所内
9月28～29日	一泊旅行	鳥羽方面
11月22日	カラオケ外出	レインボー
12月22日	クリスマス会	所内
1月24日	木津育栄会お菓子作り	保健センター

2月 8日	新年会、成人のお祝い	ココラク
2月20日	避難訓練	所内

年度当初に作成した年間計画どおりに実行できた。9月には利用者からの希望が多かった鳥羽方面への一泊旅行を企画実行。1月の新年会はインフルエンザ流行の為、2月に延期した。

4 事故、苦情

内 容	件数
事故	0件
苦情	0件

主だった事故や苦情はなかったが、革製品において外部からの注文が増えた事もあり、注文間違いなどの理由で作り直す事が多くあった。

スタッフ間で連携して細やかな確認・対応が必要となってくる。

また配布物の配り間違いも何度かあったのでチェック体制を作るなど何らかの対策が必要となってくる。

5 見学、実習 受け入れ

日 時	内 容
6月 8日	支援学校保護者見学
7月18 ～20日	支援学校生徒実習
7月26 ～28日	支援学校生徒実習
9月 4日	支援学校保護者見学
9月17日	因島出会いの家 見学
9月20日	介護サービスゼロワン見学
10月24日	西和支援学校保護者 見学
12月 5日	支援学校生徒実習
1月29日	支援学校生徒実習
2月 2日	支援学校保護者 見学
2月20日	支援学校生徒実習
3月14日	支援学校保護者 見学

南山城支援学校の生徒さんの実習や保護者の見学が増えている。

この中から平成30年度から通所する方が2名決定した。事業所が移転・合築した後も受け入れのニーズは高まると予想される。

6 その他・会議、研修等

日 時	内 容
6月10日	法人内研修（救急法）
6月16日	京都府集団指導
6月17日	革ファスナー ワークショップ
6月30日	法人内研修（食事介助）
7月27日	法人内研修（精神障害について）
10月19日	法人内研修（重度障害について）
3月27日	報酬改定説明会

主に法人内の研修に参加。外部の研修に参加できる機会を増やしていきたい。

- ・避難（防災）訓練2回実施
- 利用者健診（内科）1回実施
- 歯科検診（指導）

- ・8月警報発令の為、午後閉所
- ・9月警報発令の為、10時より開所
- ・10月警報発令の為、11時より開所
- ・1月インフルエンザ感染の為、4日間休所

社会福祉法人相楽福祉会

平成29年度 エコ・クリーン相楽 事業報告（案）

清掃作業において年間を通して計画的に作業設定を行い、行政との業務委託契約については滞ることなく履行する事ができた。ただ夏季の除草作業については今年度も悪天候などが続き遅延傾向であったため、次年度からは開始時期の調整を行う必要がある。昨年度から引き継いで効率化のための作業方法の変更や確認、道具の整備などを行い、年度末には全員で話し合いの時間を設けて作業内容についての振り返りを行った。

夏季には1名の利用者から屋外作業の困難さの訴えがあり室内作業への変更の希望があった。他事業所の見学や、収入面での違い等、ご本人との話し合いを重ねた結果、室内作業を行う同法人他事業所を一週間のうち曜日を分けて利用することとなった。

今後加齢や体力低下に伴い同じようなケースはますます表面化していくと予想され今後の課題として残る。1月には感染症の流行で3日間休所せざるを得ない事態となった。感染症の怖さと予防の大切さを、身をもって知ることとなった。

年度後半は合築移転の候補地が決まり、移転に向けての準備を日々の作業と並行して進めていった。円滑に作業が遂行できるようシミュレーション等を行い、また利用者とも新しい場所での過ごし方や建物の掃除、引っ越しの準備等を行った。実際に動き始めて見えてくる課題は多々あると思うが、利用者には小規模の良さを活かした支援を行っていきたい。

<計画に即した評価>

1 基本方針

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 法令を遵守し、利用者、家族、地域から信頼を得る施設運営を行う。(2) 利用者の人権が尊重され、自己実現に向けて主体的に過ごすことができるよう支援を行う。(3) 「ともに働く」なかでも個別化したニーズの掘り起こしとそのニーズに応える支援を行う。 |
|---|

利用者一人ひとりのアセスメントに基づき支援計画を作成し支援を行った。利用者との関わりの中でニーズの確認・調整や健康状態の把握等を行うよう努めた。必要に応じて家族への連絡を行った。作業において車両移動の際には安全運転に努め、昨年度から引き継いで道具の改善や作業方法の工夫等を行い地域の方に気持ちよく使って頂ける公園管理を心掛けた。草刈り機等の機器を使用の際には利用者及び地域の方の安全を重視し支援にあたった。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">(4) 事業所合築に向けて検討を行う。 |
|---|

年度途中に合築の候補地が具体的となり、作業と並行して次年度の移転に向けて、準

備を少しずつ進めていった。

2 事業内容

(1) 日中活動

- ・地域の公園や社会教育施設の清掃、管理を主な作業内容とし「生活介護」「就労継続支援B型」事業を実施する。
- ・行政との業務委託契約履行のため、計画的に作業設定を行い実施する。

利用者が安全に作業を行えるように作業設定への配慮を行った。委託契約内容の履行のため計画的に作業設定し実施した。夏期の草刈り作業が今年度も悪天候のため遅延気味であったが、一か所を3月に行う事で契約内容通り履行できた。

- ・作業内容については、利用者一人ひとりの状況に配慮して設定する。

利用者の状況に合わせて作業設定への配慮を行った。夏季に1名の利用者から屋外作業への困難さの訴えがあり、同法人他事業所の並行利用の調整を行った。

- ・収入増、また利用者の高齢化を視野に入れ、新たな作業開拓の可能性や作業内容の見直しを行っていく。

新規作業についての検討を行ったが具体的に収入増に繋がる取り組みはできなかった。前述のように高齢化、体力低下に伴う利用形態の変化は、今後他利用者においても徐々に表面化していくと思われ、本人の日々の生活や作業に対する意欲にも配慮しつつ作業設定を行う必要性和難しさを感じている。

- ・利用者同士で話し合いや外部研修等の機会を積極的に作り、主体性を伸ばしていけるよう支援を行う。

作業内容の変更や確認等は朝の打ち合せの時間を使い話し合いを行った。年度末に作業内容についての振り返りと改善点や作業方法の統一など、全員で話し合う機会を設けた。また他法人が企画する職場の見学会や講演等の情報提供を行い職員と数名の利用者が参加した。

- ・行事や休日レクリエーションについては、利用者とともに計画し実施する。

行事やレクリエーションの企画については、日中活動の時間内において話し合いの機会をもち決定した。少数派の意見は同意を得て次回に実施する等配慮を行った。旅行については2グループに分かれ、それぞれ別の日に設定し実施した。旅行期間中の作業はもう一方のグループが行った。

（２）支援の質の向上

- ・利用者のニーズに基づき個別支援計画を作成し、中間評価を行いながら支援する。

利用者からの聞き取りに基づき個別支援計画を作成し、会議の場で検討を行い職員間で共有した。中間時期には再度聞き取りを行い計画の見直し、年度末には年間計画の評価を行い次年度に繋げるよう努めた。

- ・利用者へのモニタリングを行い、タイムリーに必要な支援を行えるよう努める。
- ・会議等で日々の利用者の状況を職員間で共有し、支援内容の振り返りや支援方法の調整を図り人権が守られた支援を行う。

個別に面談する機会はあまりもてなかったが、日々の関わりから利用者の状況を知るとともに速やかに支援内容に反映するよう努めた。日々の反省会で利用者の現状把握、支援内容の振り返りを行い職員間で共有した。

- ・法人内研修や外部研修の参加など職員の資質向上に努める。

法人内研修については、それぞれの職員が対象の講義に参加した。資格所得のための研修には作業設定の調整等を行い、でき得る範囲で職員に参加してもらった。

（３）事業所機能の充実

- ・安心・安全な環境の確保に努め、職員の安全管理に関する意識を高めるとともに、施設内外の安全について常時点検や改善を行っていく。
- ・快適で機能的な作業環境となるよう、施設整備や雰囲気作りに努める。

日々の作業において、移動の際の車両運転を含め安全には留意し作業を行った。車両へのドライブレコーダーの設置により安全運転への意識をより高めることができた。夏期の草刈り作業において、作業後に木のツルによる被害で湿疹がでた利用者が１名いた。機器のメンテナンス、補修、修理依頼などを作業に支障がないよう適宜実施した。

- ・事業所合築後もスムーズに作業が実施できるように、利用者とともに準備を進めていく。

移転地の決定以後、所内の片付けや整理、掃除など作業時間内に設定し利用者と少しずつ行っていた。新しい場所での過ごし方や通勤経路等、利用者と話し合う機会や年度末の引っ越しにおける物品の搬出入を利用者とともにいった。

- ・法人内での連絡と報告を徹底し、連携した施設運営を行う。

日々法人内各事業所と連携し、特別な事項がある場合には報告・連絡・相談を行うよう努めた。

<資料>

1 利用者の状況（※平成30年3月時）

（1）利用者数 9名

生活介護 7名（男性7名） ※平均障害程度区分：3.7

就労継続支援B型 2名（男性2名）

（2）平均年齢 50歳

2 活動内容

（1）作業

・精華町（建設課） 山田川駅前交通広場等維持管理業務委託

場 所	内 容
山田川駅前交通広場	ごみ拾い 除草 散水 等
祝園駅西側公衆便所	トイレ清掃 ごみ拾い
鳥谷公園	トイレ清掃 ごみ拾い 散水 等
池谷公園	トイレ清掃 ごみ拾い 散水 等
畑の前公園遺跡の杜	トイレ清掃 ごみ拾い 散水 等

・精華町（建設課） 池谷公園他除草業務委託

場 所	内 容
鳥谷公園	除草 塵埃収集 処分 等
池谷公園	除草 塵埃収集 処分 等

・精華町（体育協会）維持管理業務

場 所	内 容
打越台グラウンド	トイレ清掃 ごみ拾い グラウンド管理棟清掃 グラウンドベンチ清掃 等

・木津川市（教育委員会）社会体育施設清掃等委託業務

場 所	内 容
兜谷グラウンド周辺	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 剪定 整地 等
木津グラウンド周辺	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 整地 等
木津川台グラウンド	ごみ拾い 除草 剪定 整地 等
梅美台テニスコート	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 等
赤田川グラウンド	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 剪定 整地 等

場 所	内 容
加茂体育館	トイレ清掃 除草 等
加茂グラウンド	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 等
山城コミュニティ 運動広場	トイレ清掃 ごみ拾い 等
木津川市中央体育館	除草
城址公園	(社会体育係業務委託) トイレ清掃 ごみ拾い 等
	(文化財保護室業務委託) トイレ清掃 ごみ拾い 等

- ・ 相楽福祉会 ゴミ回収・生ゴミ回収（7～9月） 除草 等
- ・ 精華町障害児者育成会 古紙回収
- ・ リサイクル業務（空き缶回収）
- ・ ペットボトルキャップ運搬
- ・ 倉庫清掃
- ・ 廃油石鹼作り
- ・ 地域の方へ落ち葉運搬

(2) レクリエーション

日 程	内 容	参加利用者数 ※（スタッフ数）	備 考
4／10（月）	花見	8名（3名）	けいはんな記念公園
5／20（土）	カラオケとボウリング	7名（2名）	新田辺駅
6／24（土）	長谷寺あじさい散策	5名（2名）	
7／15（土）	プロレス観戦	6名（3名）	
8／26（土）	食事会	8名（2名）	たこ焼き
9／23（土）	京都水族館	7名（2名）	
10／15（日）	大相撲 京都秋巡業見学	8名（3名）	島津アリーナ京都
12／16（土）	カラオケとボウリング	7名（2名）	新田辺駅
1／12（金）	新年会	6名（4名）	
2／24（土）	大阪城と梅林	7名（3名）	

(3) 行事・利用者研修等

日程	内容	参加利用者数 ※ (スタッフ数)	備 考
6 / 1 (木)	精華町特定健診	3 名	精華町役場
9 / 5 (火)	利用者健診	6 名 (2 名)	精華病院
12 (火)			
13 (水)			
10 / 5 (木)	お金の使い方講座	2 名 (1 名)	木津川市東部交流会館
11 / 28 (火)	インフルエンザ予防接種	4 名 (3 名)	
30 (木)			
11 / 8 (水)	伊豆旅行	4 名 (2 名)	
~ 10 (金)			
11 / 15 (水)	山梨旅行	3 名 (2 名)	
~ 17 (金)			
12 / 12 (火)	歯科検診	8 名	相楽作業所
12 / 28 (水)	相楽作業所餅つき手伝い	8 名 (3 名)	浄瑠璃寺
1 / 23 (火)	障がい者が働く場の見学会	4 名 (1 名)	(株)王将ハートフル
2 / 13 (火)	歯科指導	8 名	相楽作業所
2 / 23 (金)	働く場の集い	1 名 (1 名)	木津川市東部交流会館
3 / 9 (金)	京都市防災センター見学体験	8 名 (3 名)	

3 職員研修・出張

日 程	内 容	会 場	参加者数
5 / 8 (月)	自立支援協議会事務局会議 就労支援部会	山城南保健所	1 名
6 / 10 (土)	法人内研修「救急法」	かしのき苑	3 名
6 / 16 (金)	集団指導	文化パーク城陽	1 名
6 / 19 (月)	自立支援協議会 就労支援部会	山城南保健所	1 名
6 / 30 (金)	法人内研修「食事介助」	デイセンター	2 名
7 / 12 (水)	強度行動障害支援者養成研修 (基礎)	京都テルサ	1 名
26 (水)			
7 / 27 (木)	法人内研修「精神障害者」	相楽作業所	1 名

日 程	内 容	会 場	参加者数
9 / 26 (火)	自立支援協議会 就労支援部会	山城南保健所	1 名
10 / 19 (木)	法人内研修「身体障害」	デイセンター	1 名
11 / 29 (水)	就業支援実践研修（高次脳機能障害コース）	新大阪丸ビル別館	1 名
1 / 9 (火) ～ 11 (木)	強度行動障害支援者養成研修（実践）	京都テルサ	1 名
1 / 24 (水)	工賃向上計画研修	ハートピア京都	1 名
3 / 27 (火)	報酬改定説明会	文化パーク城陽	1 名

4 所内事故・苦情

内 容			件数
事故等	怪我	木のツルによる被害	1

5 その他

日 程	内 容	備 考
8 / 7 (月)	警報発令のため午後休所	
9 / 12 (火)	警報発令のため2時間遅れで開所	
10 / 24 (火)	支援学校保護者 作業風景見学	
1 / 18 (木) ～ 20 (土)	感染症流行及び予防のため休所	
3 / 2 (金)	雇入れ健診	職員 1 名
3 / 13 (火)	避難訓練	全員

社会福祉法人相楽福祉会
平成29年度 サービスセンター相楽事業報告（案）

当年度は5月と9月に、それぞれ2ヵ月近くに及ぶ緊急による短期入所の利用があり、他事業所職員の協力を得ながら対応した。その他の短期入所と一時支援は、緊急・逼迫性が高いニーズを優先して提供を行い、行動援護と移動支援は、他事業所職員の協力を得つつ可能な限り対応した。他法人のサービス紹介も含めてニーズに合った支援ができるよう引き続き調整が必要である。平成30年3月より、利用者1名がグループホームから居宅に移行したため、身体介護の提供件数が60件程増えた。通院等介助は毎月平均して90件程度利用があり、同じ日に利用が集中しないよう可能な限り調整した。

平成29年度より一時支援・移動支援の単価の見直しが行われ、とりわけ、生活介護等と同一日利用の一時支援に関する単価が下がった影響が大きく、支援度の高い支援を対象とした加算等を検討してもらうよう要望を行ったが、平成30年度改定は見送られた。引き続き市町村と協議を続けていく必要がある。

安全対策等については、補助金を活用して、便器器具漏水修理、事務所及び廊下の照明設備改修(LEDに交換)工事、浴室脱衣所の床補修工事を行った。今後も事故を未然に防ぐためにも、危険箇所への迅速な対応と老朽化した設備に対して計画的に修繕を行っていく必要がある。

<計画に即した評価>

1 各種サービス

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・フェイスシートや支援計画の更新を行い個々の利用者にあった支援内容を検討する。・必要に応じて家族、関係機関、他事業所と相談しながらサービス内容の見直しを行う。・少しでも多くのニーズに対応できるようスタッフ確保に努める。 <p>なお、新規利用者へのサービス提供は今後の継続課題とする。</p> |
|---|

サービス内容については、必要に応じて通所施設職員や家族と相談しながら検討、見直しを行った。

当年度も相楽作業所、相楽デイセンターの各施設長を交えてサービス調整会議を毎月実施し、緊急性が高いケースの情報共有や効率的な人員配置の調整を行った。

女性アルバイトスタッフが新たに2名増え、職員の幾分の負担軽減に繋がったが、夜間・休日のサービスニーズに対応していくために、アルバイトスタッフの募集は継続する必要がある。

新規利用者1名に対し短期入所と通院等介助を可能な範囲で提供した。

2 支援の質の向上

- ・利用者に対して人権に配慮した支援ができているか常に自ら振り返り、また、不適切な支援に対して指摘し合える職員関係を築く。
- ・職員間の報告・連絡・相談、情報の共有を確実にを行い、個々の利用者に応じた支援を行う。
- ・利用者の変化に確実に気付き、設備や支援内容の見直しを随時行う。
- ・法人内部および外部研修に計画的に参加し、職員の資質向上を図る。
- ・ミーティングや個別の話し合いの場を積極的に作り、支援の質的向上に努める。

人権に配慮した支援ができているか、意識的に振り返りを行った。支援の質の向上や人権意識を高めると共に、互いに指摘し合える環境作りを継続して行う。

他事業所と連携して情報を共有し、業務日誌等を用い、服薬や留意事項について配置スタッフへの引継ぎを行った。

職員体制上の困難さから外部研修への参加機会がなかったが、今後は研修参加を計画的に行い、支援の質の向上に努める。

日々の支援の中で気付いたことはその都度話し合い、支援内容の改善と共通理解を深めることができた。

3 事業所機能の充実

- ・関係機関、他事業所との連絡を密に行い情報の共有と連携をはかる。
- ・年2回の防災訓練を計画的に実施する。
- ・薬、個人情報、貴重品等を厳重に管理し、紛失や間違いが起こらないように努める。

必要に応じて関係機関、他事業所との連携をはかることができた。
サービス利用時に持参された薬、貴重品等を鍵のかかる書庫に保管することで紛失が起こるのを防ぐことができた。

<資料>

1 利用者の状況（登録利用者数）

- ◎相楽福祉会通所利用者 96名
- ◎上記以外 8名

2 事業内容

- ① 居宅介護（身体介護・家事援助・通院等介助）
- ② 行動援護
- ③ 重度訪問介護
- ④ 短期入所
- ⑤ 日中一時支援
- ⑥ 移動支援

⑦ 福祉有償運送

《参考》 平成30年2月サービス提供の状況

サービス内容	件数
居宅介護（身体介護・家事援助）	77
居宅介護（通院等介助）	82
短期入所	56
行動援護	44
移動支援	32
日中一時支援	139
福祉有償運送（移送サービス）	180

※短期入所…1泊2日を2件とカウント

※行動援護…内39件はグループホーム利用者

※移動支援…内26件はグループホーム利用者

3 研修・出張

日程	研修名・内容	会場	参加
4/25（火）	下校時配車説明会及び学校見学会	南山城支援学校	1名
6/16（金）	京都府集団指導	文化パーク城陽	1名
6/30（金）	法人研修「食事介助について」	相楽デイセンター	2名
9/22（金）	法人研修「発達障害の理解」	相楽作業所	1名
10/19（木）	法人研修「重度の身体障害がある人の支援」	相楽デイセンター	1名
3/27（火）	平成30年度報酬改定説明会	文化パーク城陽	1名

4 事故・苦情

内 容		件 数
事故	服薬ミス	0
	怪我	1
	車両事故	0
	感染症	0
苦情	サービス利用について	1

怪我は、短期入所利用中、サービスセンター内を移動する際、車椅子に乗ったまま前向きに転倒し右足脛骨骨折。苦情は、短期入所の2連泊の回数が少ないことに対して。

5 その他

日程	内容	備考
4/ 5 (水)	男性身障者トイレ 便器器具漏水修理	林設備工業
4/15 (土)	照明設備改修工事（事務所 他）	モリタ電化
6/19 (月)	リビング側自動ドア 錠取替工事	吉田建築
6/24 (土)	高圧交流負荷開閉器他 更新工事	モリタ電化
6/29 (木)	ガスヒーポン定期点検 5 回 目	リビングメンテサービス 北東
6/30 (金)	防災訓練	
7/ 7 (金)	ガスメーター交換	きんぱい
8/20 (日)	小浴室脱衣所床補修工事	キール
9/ 1 (金)	コピー機納品	キットシステム
9/ 2 (土)	インターフォン修理	モリタ電化
9/10 (日)	ワックスがけ	フジハラ美装
1/ 9 (火)	消防用設備点検	ベルテック
3/11 (日)	貯水槽清掃	オリックスファシリティズ
3/12 (月)	防災訓練	
3/30 (金)	ガス給湯器点検・整備	竹中ガス住設センター
3/31 (土)	リビング側自動ドア修理	サニー産業

社会福祉法人相楽福祉会

平成29年度 グループホームサポートセンター「樹葉」 事業報告（案）

グループホーム資源を拡大できない現状から、当年度秋には京都府山城南保健所、木津川市、精華町の福祉部局への状況説明を行った。以前から人員不足による労働過重や、夜間宿泊・休日日中支援における通所等他事業所職員への依存状態が大きな課題となっている。年々改善はしているものの、引き続きマンパワーの確保に取り組む必要がある。

安心、安全の確保において、減少傾向にあった服薬支援事故は10件で前年度比4件増加した。前年度に引き続き入居者の加齢に伴う身体機能等低下による転倒もあった。改正消防法によるスプリンクラー整備は、前年度に国庫補助金の内示を受け当年度に実施し、法に適合させることができた。

生活支援においては、加齢から身体機能等低下がみられる入居者が介護保険デイサービスの利用や福祉器具の活用で、身体機能維持も見られた。また、グループホームでの生活を年々重ねる中で、生活スタイルや情緒面での細かな変化が見られるケースもあり、支援度が高くなった入居者もいた。

また、当年度はサテライト住居とグループホーム住居1か所を廃止した。2名の入居者が退居し自宅での居宅生活に移行した。グループホーム住居の廃止は計画的に進め、居宅生活の移行には関係機関と連携を行なった。

<計画に即した評価>

1 生活支援

- ・一人ひとりのニーズに沿った支援計画に基づいて支援し、必要に応じ見直しを行う。
- ・個人支援方針・方向性を他事業所サービスと調整する。また、介助手順・マニュアルや生活歴既往歴等のデータを充実させ、良質で均質な支援を継続する。
- ・高齢入居者に必要な介護や支援体制・住まいの形態について検討する。
- ・他事業者のサービスも活用し、介護や余暇支援の充実をはかる。

個別支援計画に基づいて支援を行なった。介助手順や支援に関するマニュアルの整備も進んだが更なる充実を要する。介護保険サービスを利用している入居者については、ケアマネジャーや介護保険事業所等と随時会議にて情報共有を行った。将来の生活の選択肢として特別養護老人ホームの見学も行った。なお、前年度は感染がなかったインフルエンザは、2住居で入居者4名、職員6名。夏場に介護保険デイサービスで感染したと思われるケースもあった。ノロウィルスに感染した入居者はいなかった。また、大きな病気で入院手術を要する入居者の付添や受診支援も行なった。

当年度も企画別のレクリエーションを実施したほか、個人単位のガイドヘルプサービスを利用して休日支援を行なった。他法人事業所のガイドヘルプサービスも活用できるよう調整を行なった。介護保険対象入居者の中では土曜日や日曜日に介護保険デイサービスを利用した人もいた。

・きたのどう相朋舎の廃止に向け代替支援体制を検討、実施する。

当年度3月にきたのどう相朋舎を廃止した。退居された入居者の代替支援体制は、サービスセンター相楽や相楽地域障害者生活支援センター、法人内通所施設、精華町福祉課と連携、調整し進めた。15年以上運営した住居の廃止であり、長年お世話になった住居貸主や近隣との情報共有も意識して行なった。

2 安心、安全の確保

- ・危険物、薬品、貴重品、個人情報等を厳重に管理し、間違いが起こらない環境整備に努める。
- ・支援方法や構造等における危険個所を随時確認し改善する。
- ・年2回の避難訓練等を行い火事や災害時の危機対応に備える。また、非常災害対策計画の策定について検討をはじめめる。
- ・スプリンクラー未設置住居について、国庫補助事業による整備を行う。

服薬支援事故は10件で前年度比4件増加した。飲みこぼしの見落としが目立った。服用時の見守り徹底を再周知するとともに、服薬ゼリーを使用し始めたケースもあった。休日や夜間の服薬事故時、医療機関に対応してもらえない際に調剤薬局の緊急窓口を活用して指示を仰ぐことができた。かみこま相朋舎で他住居からの服薬確認連絡を受ける態勢、入居者の処方内容をリアルタイムで一元的に把握する体制は継続している。

従前から加齢に伴う身体機能等低下による転倒、新たに介助を要する場面が増加している。介護保険の福祉用具を活用し、歩行器の導入で転倒が減少したケースがあった。

平成30年3月までの設置が義務化されていたスプリンクラー設備は前年度の国庫補助金内示を受け、当年度2住居で整備した。入札や施工業者との協議を行い、入居者の生活に支障が出ないように配慮した。避難訓練は年2回実施した。

3 支援の質の向上

- ・職種に関わらず支援に携わる者がお互いの支援の在り方について指摘し意見を交わすことによって入居者を尊重したよりよい支援を行う。
- ・計画的に研修・見学機会を設け、職員の人権意識、資質向上をはかる。

当年度は他法人グループホームの見学を実施できなかった。外部研修

では強度行動障害支援者養成研修や自閉症基礎講座、応用行動分析研修等へ派遣した。

事業所、住居ごとの会議を開催し生活支援員・世話人各々の視点で入居者支援についての気づきや改善内容を共有した。その中で、数年前と比べ生活における行動や習慣に変化が見られる入居者がいることが明らかになった。

- ・夜勤や変形労働時間を活用し効率的な人員配置に努めるとともに、夜間休日の人員確保をすすめ、労働過重を改善する。

年度途中で急な事情で夜間支援アルバイトが退職し、そのタイミングで別の夜間支援アルバイトを嘱託雇用することができ、女性支援員が手厚くなった。前年度からかみこま相朋舎の夜間支援員配置を週2～3回程度3名から2名に減員する体制を継続し、通所施設の応援も活用した。また、新たな夜間支援員アルバイトが入職した一方、従来のアルバイトが日数減になるなど、全体的に状況は改善しているが、男性支援員の状況は一部悪化している。

宿泊スタッフのほか朝夕の繁忙時間帯にはフォロー体制を敷いており、非常勤職員や変形労働時間を活用したものの他事業所への依存度も高い。今後も介護度の高まりから現状よりも手厚い人員配置を要することが予想される。

<資料>

1 利用者・住居の状況（平成30年3月31日現在）

	かみこま 相朋舎	ほうその 相朋舎	はぜ 相朋舎
所在地	木津川市	精華町	木津川市
開設年	2005年	2014年	2013年
入居者数	男3、女3	男9	女9
平均年齢	53.2歳	53.1歳	53.7歳
障害支援区分(平均)	5.7	5.1	5.0
夜間支援体制	男2、女1	男2	女1

当年度6月にサテライト住居を、3月にきたのどう相朋舎を廃止した。これにより住居は3か所、定員25名となった。全住居の平均区分が5を超え支援度が高い傾向がある。要介護認定を受けている入居者は計5名。

2 レクリエーション

前年度同様、企画を立て好きなコースに参加していただく形態をとった。同じ住居の入居者間でも趣味嗜好や快適なペースが異なること、個別ガイドヘルプの機会が少ない入居者がいることから今後のレクリエーションのあり方

も検討を要する。なお、平成30年度はグループホーム入居者全体でのレクリエーションを行うことを計画している。当年度の内容は次のとおり。

- 7/29（土） バーベキュー&木津川花火大会観賞（かみこま相朋舎）
- 9/24（日） ボウリング・外食（京田辺市）
- 11/23（祝） 寿司会食（木津川寿司）

3 研修

法人内研修および外部研修に参加した。法人内研修は業務上参加できない傾向が従来からあるが可能な限り参加した。外部研修では、強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）2名派遣し常勤職員は全員受講済みとなった。また、自閉症 e サービスが主催する研修へ3名派遣した。前年度から続いていた介護職員初任者研修が1名修了し、資格取得から給付費算定額も増加した。当年度は他法人グループホームの視察は実施できなかった。次年度以降も非常勤職員を含め学ぶ機会を増やし、資質向上をはかりたい。

4 事故・苦情

服薬ミスは2年前・3年前と年々減少していたが、前年度は2件増加、当年度は前年比4件増加し、ヒヤリハットも6件あった。服薬ミスは、飲みこぼしや飲み残しの見落としが目立った。転倒は医療機関受診をしなかった軽いものは件数に挙げていない。入居者家族からの苦情は本人管理の金銭の使途について、この後に通帳と現金がグループホーム預かりとなった。外部でのトラブルは、グループホームで把握できていないものもあると考えられる。その他事故は、入居者に求められ介護者が前髪を切ってしまう、爪切りで皮膚を切る、居室電源延長ケーブルが焦げる、というもの。

服薬ミス	10件
転倒（大きなもの）	3件
その他事故	3件
車両事故（物損）	2件
対外トラブル	0件
苦情（入居者家族より）	1件
苦情（外部より）	0件

●服薬事故年次推移

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
10件	8件	4件	6件	10件

5 支援体制の状況（夜間・休日等）

通所等他事業所常勤職員のひと月あたりの配置回数は、男女ともに減少傾向にある。支援体制の工夫やアルバイト増加が要因である。徐々に安定した傾向がみられるが、休日に通所等他事業所常勤職員を配置する割合は高くなっている。また、グループホーム担当職員の労働過重も解消できていない。

以下、状況の年次推移。

●GHでの外部スタッフ依存率の年次推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
男性スタッフ	59.9 %	45.3 %	41.9 %
女性スタッフ	41.0 %	28.8 %	22.8 %

グループホームでの通所等他事業所常勤職員への依存率の推移である。平成28年度に大幅に依存率が低下し、改善できた。平成27年度下半期に夜間手当を増額した結果、夜間支援非常勤職員の採用（応募）が増加したこと、支援体制の工夫が奏効している。

●通所等他事業所常勤職員のGH・短期入所等の稼働状況の年次推移（男性）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
月平均回数	4.1 回	4.3 回	3.8 回	4.0 回
休日率	46.0 %	50.9 %	55.8 %	52.1 %

●通所等他事業所常勤職員のGH・短期入所等の稼働状況の年次推移（女性）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
月平均回数	5.4 回	5.3 回	3.7 回	3.0 回
休日率	37.8 %	40.7 %	46.4 %	47.4 %

法人常勤職員がグループホームや短期入所等での稼働状況を職員1人あたりで算出したものである。傾向を正確に把握できるようグループホームおよびサービスセンター職員、新任職員や子育て中のママ職員を除いている。

職員によってばらつきがあるため、あくまで平均であるが、男性の回数が平成29年度に増加している。男性利用者家族の入院等による長期に及ぶ短期入所の増加が影響しており、短期入所での男性の配置数は前年度同時期比2.2倍となっている。

女性の回数は平成27年度まで5回を超えており、強い労働過重状態であったが現在は減少傾向。グループホーム非常勤支援職員の増加が原因である。

なお、男女ともに休日の稼働割合は増加傾向にある。